

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	基礎看護学概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期	教室名	1年教室
担 当 教 員	武内 孝江	実務経験と その関連資格	看護師。病院勤務。			
《授業科目における学習内容》						
看護の基本となる概念を体系的に理解し、保健・医療・福祉の広い視野で、看護の機能・役割を理解する。また人間理解を基盤とした上で、専門職業人としての、倫理的態度を養う。看護に関する過去と現在・未来の見通しを伝え、看護学の本質を理解させると同時に、看護学の豊かさ、深さをイメージさせ、関心を高め、各領域の看護学への学習意欲を発展させるための学習をする。						
《成績評価の方法と基準》						
小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験、技術試験で総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門分野1看護学概論 医学書院 医療倫理学のABC メヂカルフレンド社 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 看護覚え書 日本看護協会出版会						
《授業外における学習方法》						
教科書以外の教材を使用し、看護や看護理論、看護の変遷等について幅広く学習する						
《履修に当たっての留意点》						
積極的に授業に取り組み、意見を述べましょう。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護の基本概念を理解する	看護学概論 資料	看護について、今現在の考えをまとめる	
		各コマにおける授業予定	看護の本質、看護学を学ぶ意味、看護の変遷			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	主要概念について考えることが出来る	看護学概論 資料	それぞれの概念について意味を調べる	
		各コマにおける授業予定	看護の定義・人間 環境 健康 看護とは			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護に関するいくつかの理論を理解する	看護学概論 資料	理論家について 図書で調べる	
		各コマにおける授業予定	看護理論家達による看護の定義「私の考える看護」			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	基本的ニーズより、看護とは何か学ぶ	看護学概論 看護の基本となるもの(ヘンダーソン)	ヘンダーソンの「看護の基本となるもの」を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	ヘンダーソン「看護の基本となるもの」、基本的にニーズ14項目グループでまとめる			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	看護の覚え書より、近代看護の確立について学ぶ	看護学概論 看護の覚え書(ナイチンゲール)	看護覚え書について考えをまとめる	
		各コマにおける授業予定	ナイチンゲール「看護覚え書」グループでまとめる			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標 発表を聞いて、看護についての考えを深める	看護学概論 看護の基本となるもの 看護覚え書	看護について自分の考えをまとめる
		各コマにおける授業予定 グループワークの発表 「看護の基本となるもの・ナイチンゲール覚え書」		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 看護の役割と機能について学ぶ	看護学概論	教科書で予習する
		各コマにおける授業予定 看護の機能と役割、ケアとは、看護実践とその保障に必要な要件		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 看護活動の拡大について学ぶ、多職種との連携について学ぶ	看護学概論	教科書で予習する
		各コマにおける授業予定 看護の機能、役割の拡大、疾病の構造変化と看護活動の場		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 人間について理解することが出来る	看護学概論	教科書で予習する
		各コマにおける授業予定 看護の対象となる人間の理解、ホメオスターシス、ストレス理論		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 人間の発達段階とその課題について学ぶ	看護学概論	人間の発達段階について学習する
		各コマにおける授業予定 生涯発達し続ける存在：エリクソン、ハヴィガースト人間の暮らしの理解		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標 健康について理解することが出来る	看護学概論	健康について学習する
		各コマにおける授業予定 健康の理解：健康の定義、障害の定義		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標 国民の健康の全体像を知る	看護学概論	教科書で予習する 統計について予習する
		各コマにおける授業予定 人々の生活と健康に関する統計、看護職者としての健康な生活		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標 専門職業人としての倫理的態度を養う	看護学概論 資料	看護理論について学習する
		各コマにおける授業予定 看護倫理について		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標 看護管理の目的とその過程・マネジメントのあり方 チーム医療・医療安全の必要性を学ぶ	看護学概論 資料	看護管理・医療安全について予習する
		各コマにおける授業予定 看護管理 医療安全について		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標 災害時の看護師の役割・国際交流 協力の意義を認識する	看護学概論	広がる看護の活動領域について学ぶ
		各コマにおける授業予定 災害時の看護について学ぶ 国際化と看護(世界的課題・国際保健の基本理念)		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	基礎看護技術 I	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生	学期及び曜時限	通年	教室名	1年教室
担 当 教 員	武内 孝江	実務経験と その関連資格	看護師。急性期病院勤務後、長年看護教育に携わる。		
《授業科目における学習内容》					
看護技術とは、対象にとってよりよい看護ケアを提供するために取得すべき技術の一つであり、また技術体系である。看護実践能力の基礎となる基本的な看護技術のうち、土台部分となる技術と言える。ここではすべての基礎看護技術の基盤にあるコミュニケーション技術、看護を計画的に展開する際基本となるヘルスアセスメント技術、アセスメントに基づく情報を活用して看護を展開する(看護過程の展開)技術について学習する。					
《成績評価の方法と基準》					
小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験、技術試験で総合的に評価する					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
系統看護学講座 専門分野2 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 専門分野3 基礎看護技術 II 医学書院 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 ヌーベルヒロカワ 看護診断ハンドブック 第11版 医学書院					
《授業外における学習方法》					
図書室にて参考になる事例で、看護過程の展開について自分なりに学習する					
《履修に当たっての留意点》					
積極的に参加すること。課題の提出物の期限を厳守すること。					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標 基礎看護技術の特徴と基本原則を理解する	基礎看護技術 I	基礎看護技術の教科書にて、内容を簡単に予習する	
	各コマにおける授業予定	基礎看護技術とは 基礎看護技術の特徴、基本原則、構成 看護学生に求められる範囲と遂行に求められる能力			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標 コミュニケーションの意義と目的を理解する	基礎看護技術 I 資料	コミュニケーションの重要性について調べる	
	各コマにおける授業予定	コミュニケーションの意義と目的 人間のコミュニケーションの特徴 医療におけるコミュニケーション			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 効果的なコミュニケーションを体験し習得する	基礎看護技術 I 資料 演習	演習のための学習	
	各コマにおける授業予定	効果的なコミュニケーションの実際 コミュニケーション障害への対応			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標 情報収集の技術を習得する	基礎看護技術 I 資料	教科書にて該当するところを学習する	
	各コマにおける授業予定	情報収集の技術(オープン・クローズドクエスチョン) アサーティブネス			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標 看護過程について理解する	基礎看護技術 I 看護過程と看護 診断 資料	看護過程について事前学習する	
	各コマにおける授業予定	看護過程とは 看護過程の意義 看護過程の各段階			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	情報収集の方法を理解する	基礎看護技術 I 看護過程と看護 診断 資料	情報について理解する
		各コマにおける授業予定	情報〔データ〕の収集 情報をもつ意味を考える 情報を分析する道筋		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	ゴードンの11項目を理解し、実際にGWを通して体験し、その技術を習得する。	基礎看護技術 I 看護過程と看護 診断 資料	ゴードンの枠組みについて学習する グループワーク
		各コマにおける授業予定	ゴードンの11項目についてGW／発表		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護問題の明確化、計画・実施・評価の方法を理解する	基礎看護技術 I 看護過程と看護 診断 資料	資料・参考書を読んでおく
		各コマにおける授業予定	看護問題の明確化 看護計画・実施 評価の方法		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護記録について理解する	基礎看護技術 I 資料	資料にて予習する
		各コマにおける授業予定	看護記録について		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護診断について理解する	基礎看護技術 I 看護診断ハンド ブック 資料	診断ブックの使い方を理解する
		各コマにおける授業予定	看護診断について		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護診断のタイプを理解し、ハンドブックの使い方を習得する	基礎看護技術 I 看護診断ハンド ブック 資料	ハンドブックの使い方に慣れる
		各コマにおける授業予定	看護診断のタイプ ハンドブックの使い方		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護診断のP, E, Sについて理解する	基礎看護技術 I 看護診断ハンド ブック 資料	資料を読んでおく
		各コマにおける授業予定	情報収集(S, O, A) 看護診断(P, E, S)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	優先順位の付け方、期待される結果の表記の方法について理解する	基礎看護技術 I 看護診断ハンド ブック 資料	資料、教科書を読んでおく
		各コマにおける授業予定	優先順位について、期待される結果		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	目標の表現の仕方について理解する	基礎看護技術 I 看護診断ハンド ブック 資料	資料にて予習する
		各コマにおける授業予定	長期目標・短期目標について 共同問題について		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	OP, TP, EPについて意味と表現方法を理解する 実施と評価について理解する	基礎看護技術 I 看護診断ハンド ブック 資料	資料にて予習する
		各コマにおける授業予定	具体策(O-P, T-P, EP)・実施と評価の書き方		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	基礎看護技術Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	前期	教室名	1年教室・実習室
担 当 教 員	横田 理香	実務経験と その関連資格	看護師。急性期病棟・慢性期病棟で勤務。			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>看護における技術の重要性を理解し、看護展開の基礎となる基本的技術のうち、感染予防・安全・安楽の技術の概要と具体的方法について理解する。 人々の健康を促進するための必要な日常生活行動の援助に関わる援助方法の基本について学ぶ。 人間にとっての環境の意味を理解して、健康的な生活環境を整えるための援助方法を習得する。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験、技術試験で総合的に評価する。</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>系統看護学講座 専門分野2 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護技術が見える1・2 メディックメディア</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>技術習得に関しては、自己学習時間での反復練習、また、原理原則に沿った基本的技術のうち、感染予防・安全・安楽に関する事前復習をして望む。</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	安全管理の重要性を理解し、あらゆる状況下にある患者の安全を守り、事故を未然に防ぐための知識・技術・態度を理解し、説明することができる	テキスト 配布資料		
		各コマにおける授業予定	看護技術とは			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	安楽の意味を、看護を受ける人の視点から考え、看護援助へとつなげ実践できる知識・技術・態度を習得し、説明することができる	テキスト 配布資料		
		各コマにおける授業予定	I. 環境整備技術 1.療養生活の環境 2.病室の環境のアセスメントと調整 3.援助の実際			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護実践に必要な環境について理解し説明することができる	テキスト 配布資料		
		各コマにおける授業予定	援助の実際 1. ベッドメイキング 2. リネン交換 3. ベッド周囲の環境整備			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護実践に必要な環境について理解し、その中で「ベッドメイキング」の技術を習得でき、説明することができる	テキスト 配布資料		
		各コマにおける授業予定	リネンのたたみ方 ベッドメイキング 演習			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	看護実践に必要な環境について理解し、その中で「シーツ交換」の技術を習得でき、説明することができる	テキスト 配布資料		
		各コマにおける授業予定	臥床患者がいる場合のシーツ交換 演習			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	看護実践に必要な環境について理解し、その中で「ベッドメイキング」の技術を習得でき、説明することができる	テキスト 配布資料	
		各コマにおける授業予定	ベッドメイキング技術試験		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	安楽の意味を、看護を受ける人の視点から考え、看護援助へとつなげ実践できる知識・技術・態度を習得し、説明することができる	テキスト 配布資料	
		各コマにおける授業予定	Ⅱ. 苦痛の緩和・安全確保の技術 電法		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	安楽の意味を、看護を受ける人の視点から考え、看護援助へとつなげ実践できる知識・技術・態度を習得し、説明することができる	テキスト 配布資料	
		各コマにおける授業予定	温電法・冷電法演習		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	感染予防における看護師の知識と基本的態度を理解し、説明することができる	テキスト 配布資料	
		各コマにおける授業予定	Ⅱ. 感染防止の技術 1. 感染防止の基礎知識 2. 標準予防策		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	感染予防における看護師の知識と基本的態度を理解し、その基本である「手洗い」「個人防護具」の技術を習得でき、説明することができる	テキスト 配布資料	
		各コマにおける授業予定	衛生的手洗い・個人防護具演習		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	感染予防における看護師の知識と基本的態度を理解し、説明することができる	テキスト 配布資料	
		各コマにおける授業予定	感染経路別予防策 感染経路別予防策の基礎知識 洗浄・消毒・滅菌		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	感染予防における看護師の知識と基本的態度を理解し、説明することができる	テキスト 配布資料	
		各コマにおける授業予定	感染防止の技術 無菌操作についてのグループワーク		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	感染予防における看護師の知識と基本的態度を理解し、説明することができる	テキスト 配布資料	
		各コマにおける授業予定	感染防止の技術 演習 ・滅菌ガウン着脱、滅菌手袋着脱		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	感染予防における看護師の知識と基本的態度を理解し、説明することができる	テキスト 配布資料	
		各コマにおける授業予定	感染防止の技術 演習 ・鑷子と綿球の取り扱い・滅菌布の開け方		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	感染予防における看護師の知識と基本的態度を理解し、説明することができる	テキスト 配布資料	
		各コマにおける授業予定	感染防止の技術 針刺し予防策 感染性廃棄物の取り扱い		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	専 門 分 野	授 業 の 方 法	講 義 演 習
科 目 名	フィジカルアセスメント	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生	学期及び曜時限	後期	教室名	教室・実習室
担 当 教 員	横田 理香	実務経験と その関連資格	看護師。急性期病棟・慢性期病棟で勤務。		
《授業科目における学習内容》					
看護の対象者の健康状態を把握するための知識と技術を学ぶ。生命を維持する上で必要なバイタルサイン測定の方法や健康状態の評価に必要なフィジカルアセスメントの理論と方法を修得する。演習ではシミュレーターや模擬患者体験をして、計測の仕方や正確な情報収集、情報からのアセスメントの実際を学習する。					
《成績評価の方法と基準》					
小テスト・課題提出状況並びに内容・演習参加態度・筆記試験・技術試験で総合的に評価					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
系統看護学講座専門分野2 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学 医学書院 系統看護学講座専門分野3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座専門基礎分野 解剖生理学 医学書院 フィジカルアセスメントガイドブック 医学書院 フィジカルアセスメントがみえる メディックメディア					
《授業外における学習方法》					
講義前に事前課題(レポート課題・演習の手順書作成)などを提示する。演習後は、演習後の振り返り課題を提示する。					
《履修に当たっての留意点》					
バイタルサイン測定、系統別フィジカルアセスメントを確実に習得できるよう、家族や友人など健康な人でお互いに技術を高めあう。					
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	ヘルスアセスメントの意義と目的を理解し、必要とされる技術を学ぶ。	テキスト DVD	(課題) 問診表の作成 講義内容の復習(小テスト実施)
		各コマにおける授業予定	ヘルスアセスメントが持つ意味(意義と目的)・ヘルスアセスメントにおける観察・問診の技術		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	一般状態の観察、生命の兆候であるバイタルサインを測定の意義を学び、バイタルサインの基礎的知識(体温)を習得する。	テキスト DVD	(演習前課題) 体温測定手順書作成 講義内容の復習(小テスト実施)
		各コマにおける授業予定	バイタルサインの観察とアセスメント・体温と発熱、体温測定の方法		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	バイタルサインの基礎的知識(脈拍・呼吸・血圧)を習得する。	テキスト DVD	(演習前課題) バイタルサイン測定・観察点の手順書作成 講義内容の復習(小テスト実施)
		各コマにおける授業予定	脈拍・呼吸・血圧の測定方法(経皮的動脈血酸素飽和度含)測定値からの正常と異常を判断する基準とアセスメント		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	バイタルサイン測定を基礎知識に基づいて実施できる。	DVD	講義内容の復習(小テスト実施)
		各コマにおける授業予定	バイタルサイン測定(体温・脈拍・呼吸・血圧)の演習①		
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	バイタルサイン測定結果の解釈と報告ができる。	測定器具	(課題) 演習の振り返り
		各コマにおける授業予定	バイタルサイン測定(体温・脈拍・呼吸・血圧)の演習②		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	身体計測の意義と計測方法の基礎的知識を取得する。	テキスト DVD	(演習前課題) 身体計測の手順書を作成 講義内容の復習(小テスト実施)
		各コマにおける授業予定	身体計測(身長・体重・皮下脂肪厚・腹囲・握力計測)の基礎知識・測定方法		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	身体計測(身長・体重・皮下脂肪厚・腹囲・握力)を実施できる。	測定器具	(課題) 演習の振り返り
		各コマにおける授業予定	身長・体重・皮下脂肪厚・腹囲・握力計測の実践		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器系フィジカルアセスメントの基礎知識と測定方法を習得する。	テキスト DVD	講義内容の復習(小テスト実施)
		各コマにおける授業予定	フィジカルアセスメントの基本・呼吸器系の基礎知識 呼吸器系のフィジカルアセスメント(視診・聴診・打診・触診)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環器系フィジカルアセスメントの基礎知識と測定方法を習得する。	テキスト DVD	講義内容の復習(小テスト実施)
		各コマにおける授業予定	循環器系フィジカルアセスメント(視診・聴診・打診・触診)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳神経系フィジカルアセスメントの基礎知識と測定方法を習得する。	テキスト DVD	講義内容の復習(小テスト実施)
		各コマにおける授業予定	脳神経系フィジカルアセスメント(視診・聴診・打診・触診)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	感覚器系・口腔・外皮系フィジカルアセスメントの基礎知識と測定方法を習得する。	テキスト DVD	(演習前課題) 呼吸・循環・脳神経系フィジカルアセスメントの手順書作成 講義内容の復習(小テスト実施)
		各コマにおける授業予定	感覚器系・口腔・外皮系フィジカルアセスメント(視診・聴診・打診・触診)		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	フィジカルアセスメントの基礎知識と測定方法を習得する。	シュミレーター 測定器具 評価スケール	(課題) 演習の振り返り 講義内容の復習(小テスト実施)
		各コマにおける授業予定	呼吸・循環・脳神経系のフィジカルアセスメント(視診・聴診・打診・触診)の演習		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	乳房腋窩・腹部・筋骨格系フィジカルアセスメントの基礎知識と測定方法を習得する。	テキスト DVD	(演習前課題) 腹部・筋骨格系フィジカルアセスメントの手順書作成 講義内容の復習(小テスト実施)
		各コマにおける授業予定	乳房腋窩・腹部・筋骨格系のフィジカルアセスメント(視診・聴診・打診・触診) 乳がんのセルフチェック		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	腹部・筋骨格フィジカルアセスメントの基礎知識と測定方法を習得する。	測定器具 評価スケール	(課題) 演習の振り返り フィジカルアセスメント 総合演習課題レポート
		各コマにおける授業予定	腹部・筋骨格のフィジカルアセスメント(視診・聴診・打診・触診)の演習		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	フィジカルアセスメントの基礎知識と測定方法を習得する。	測定器具	(課題) フィジカルアセスメント 総合演習を振り返りレポート
		各コマにおける授業予定	フィジカルアセスメント総合演習		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	生活援助論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期	教室名	教室・実習室
担 当 教 員	樺 健二 森本 彩子	実務経験と その関連資格	看護師。病棟勤務、訪問看護を経験。 助産師。病院勤務。			
《授業科目における学習内容》						
人間にとって生きるために必要な食事・栄養、排泄の意味を理解し、対象が健康な生活を送るために必要な基礎知識、援助技術を学習する。また、看護の有効性を裏付ける根拠を明らかにする必要性を理解し、模擬患者やシミュレーターにより実技の実践をする。						
《成績評価の方法と基準》						
小テスト・課題提出状況並びに内容・技術演習参加状況・筆記試験により総合的に評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統的看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 II 医学書院 看護がみえるVol.1 基礎看護技術 メディックメディア						
《授業外における学習方法》						
講義前に事前課題(演習手順書・課題レポート)を提示する。 演習後は演習後の振り返り課題を提示する。						
《履修に当たっての留意点》						
自身の日常生活を振り返りながら、健康障害のある人の日常生活行動の援助が考えられるよう学ぶこと。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	食事援助の基礎知識として消化・吸収のメカニズムが説明できる	基礎看護学 II	(課題)	消化器系の構造と名称を自己学習
		各コマにおける授業予定	健康生活における食事の意義 食事を摂取する身体の機能と消化・吸収のメカニズム	配布資料		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	摂食・嚥下能力のアセスメントの方法が説明できる	基礎看護学 II	(課題)	咀嚼・嚥下のメカニズムを自己学習
		各コマにおける授業予定	食事摂取基準について、食欲と食行動に関する要素 アセスメント で提供される食事の種類と形態	配布資料		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	栄養状態のアセスメントの方法を理解し、BMIを計算することができる	基礎看護学 II	(課題)	皮下脂肪厚の測定方法を調べ学習
		各コマにおける授業予定	栄養状態のアセスメントの方法(BMIの意義と計算方法、評価基準) 栄養アセスメントに必要な検査データとその見方 摂食・嚥下訓練の方法とその実際	配布資料		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	食事介助の具体的な方法を説明できる。	基礎看護学 II	(課題)	皮下脂肪厚の測定方法を調べ学習
		各コマにおける授業予定	食事援助の実際の方法 食事援助前・食事中・食後の観察ポイント 非経口的栄養摂取法について(経管栄養の種類と特	配布資料 DVD		
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	食事介助技術(全介助)の実習を行う	基礎看護学 II	(課題)	食事援助時の注意点、留意点を調べ学習、食事援助の手順書作成、演習の振り返り
		各コマにおける授業予定	食事援助技術の実際	看護がみえる演習に必要な物品		

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標 食事介助技術(全介助)の実習を行う	演習に必要な物品	(課題) 食事援助時の注意点、留意点を調べ学習、食事援助の手順書作成、演習の振り返り
	各コマにおける授業予定	食事援助技術の実際		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 人間の排泄(排尿・排便に関するメカニズム、意義、排泄のアセスメントの方法)を理解し、健康的な生活を送るために必要な援助方法と基礎知識を習得する。	基礎看護学Ⅱ 援助に必要な物品 DVD	(課題) レポート課題 講義の復習(小テスト実施)
	各コマにおける授業予定	排泄の意義～生物学的・心理的・社会的意義 自然は遺尿および自然排泄 便の基礎知識 便のアセスメント		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 自然排尿・排便の援助方法を学ぶ。床上排泄やおむつによる排泄介助の方法の基礎知識を習得する。	基礎看護学Ⅱ 援助に必要な物品 DVD	(課題) レポート課題 便器・尿器のあて方、おむつ交換の手順書作成講義の復習(小テスト実施)
	各コマにおける授業予定	床上排泄の援助～尿器・便器のあて方 トイレにおける排泄介助 おむつによる排泄(おむつ交換)		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標 床上での排泄援助、おむつによる排泄援助を模擬患者とシュミレーターで実践する。	基礎看護学Ⅱ 援助に必要な物品 シュミレーター	(課題) 演習の振り返り
	各コマにおける授業予定	床上排泄の援助 演習 ～尿器・便器のあて方 おむつによる排泄援助 演習 おむつのあて方・おむつ交換 模擬患者とシュミレーターで実践		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 排尿困難のある人への援助方法と基礎知識を習得する。	援助に必要な物品 DVD	(課題) レポート課題 一時導尿の手順書作成講義の復習(小テスト実施)
	各コマにおける授業予定	排尿困難のある人への援助～導尿(一時的・持続的)・失禁の原因と対応		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標 排尿困難にある人への援助で、一時的導尿の援助をシュミレーターで実践する。	援助に必要な物品 シュミレーター	(課題) 演習の振り返り
	各コマにおける授業予定	排尿困難のある人への援助の演習～導尿(一時的) シュミレーターで実践		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標 排尿困難にある人への援助で、一時的導尿の援助をシュミレーターで実践する。	基礎看護学Ⅱ 援助に必要な物品 シュミレーター	(課題) 演習の振り返り
	各コマにおける授業予定	排尿困難のある人への援助の演習～導尿(一時的) シュミレーターで実践		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標 排便困難のある人の援助の方法(浣腸・摘便)と基礎知識(便秘)を習得する。また、ストーマケアについて理解する。	基礎看護学Ⅱ 援助に必要な物品 DVD	(課題) レポート課題 浣腸の手順書作成 講義の復習(小テスト実施)
	各コマにおける授業予定	排便困難のある人への援助～便秘について 便秘のアセスメント・便秘改善の看護・浣腸・摘便 ストーマケア		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標 排便困難にある人への援助で、浣腸の援助をシュミレーターで実践する。	基礎看護学Ⅱ 看護がみえる 援助に必要な物品 シュミレーター	(課題) 演習の振り返り
	各コマにおける授業予定	排便困難のある人への援助の演習～浣腸 シュミレーターで実践		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標 排便困難にある人への援助で、浣腸の援助をシュミレーターで実践する。	基礎看護学Ⅱ 看護がみえる 援助に必要な物品 シュミレーター	(課題) 演習の振り返り
	各コマにおける授業予定	排便困難のある人への援助の演習～浣腸 シュミレーターで実践		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	生活援助論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	前期	教室名	教室・基礎看護実習室
担 当 教 員	水谷 圭 森本 彩子	実務経験と その関連資格	看護師・助産師。分娩施設(周産期センター・母子健康センター) 看護師・助産師。病棟勤務。			
《授業科目における学習内容》						
人間にとっての活動と休息、身体の清潔の意味を理解して、対象が健康生活を送るため必要な援助の方法を習得する						
《成績評価の方法と基準》						
小テスト・課題提出状況並びに内容・技術演習参加状況・筆記試験・技術試験により総合的に評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統的看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学Ⅱ 基礎看護学 医学書院 看護がみえるVol.1 基礎看護技術 メディックメディア						
《授業外における学習方法》						
講義前に事前課題(演習手順書・課題レポート)を提示する。演習後は演習後の振り返り課題を提示する。						
《履修に当たっての留意点》						
予習復習をして、講義に臨むこと。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	基本的活動の基礎知識として、各体位を説明できる。	基礎看護技術Ⅱ	予習復習をして、講義の内容をまとめる	
		各コマにおける授業予定	良い姿勢 体位			
第2回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	ボディメカニクスの原則および体位変換や移動動作の基本的知識を学ぶ	基礎看護技術Ⅱ DVD	予習復習をして、講義の内容をまとめる	
		各コマにおける授業予定	ボディメカニクス 体位変換 移動、移乗、移送			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	ボディメカニクスを活用して、体位変換ができる。	援助に必要な物品	演習事前レポート (体験、手順、留意点)	
		各コマにおける授業予定	演習:体位変換、体位保持の援助の実際			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	ボディメカニクスを活用して、移乗・移送ができる。	援助に必要な物品	演習事後レポート (追加修正、振り返り)	
		各コマにおける授業予定	演習:車椅子やストレッチャーの移乗・移動・移送の援助の実際			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	睡眠・休息の基礎知識を学び、援助について説明できる。	テキスト DVD	予習復習をして、講義の内容をまとめる	
		各コマにおける授業予定	援助の基礎知識 睡眠・休息の援助			
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	

第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	身体の清潔援助の基礎知識を習得する。 人間にとっての清潔援助の必要性を理解し、整容と口腔ケアについて学ぶ	基礎看護技術Ⅱ DVD	(課題) 口腔ケアの演習手順書の作成 課題レポート 講義内容の復習(小テスト実施)
		各コマにおける授業予定	清潔援助の基礎知識 清潔の意義と効果 皮膚粘膜の構造と機能 整容・口腔ケア		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	口腔ケアの援助技術を模擬患者に実施して技術の方法を習得し、看護に必要な根拠を明らかにする。 実施した援助の評価する方法を学ぶ。	看護が見える 援助に必要な物品 DVD	(課題) 演習後の振り返り 課題レポート
		各コマにおける授業予定	清潔援助の演習①口腔ケア		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	清潔援助の方法選択の視点を理解し、入浴・シャワー浴、全身清拭、寝衣交換の基礎知識や援助の方法を習得する。	テキスト DVD	(課題) 全身清拭・寝衣交換の演習手順書の作成 講義内容の復習(小テスト実施)
		各コマにおける授業予定	清潔援助の実際～入浴・シャワー浴、全身清拭、寝衣交換		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	全身清拭・寝衣の援助技術を模擬患者に実施して技術の方法を習得し、看護に必要な根拠を明らかにする。 実施した援助の評価する方法を学ぶ。	援助に必要な物品 DVD	(課題) 演習後の振り返り 課題レポート
		各コマにおける授業予定	清潔援助の演習②全身清拭・寝衣交換 模擬患者に実施		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	全身清拭・寝衣の援助技術を模擬患者に実施して技術の方法を習得し、看護に必要な根拠を明らかにする。 実施した援助の評価する方法を学ぶ。	援助に必要な物品 DVD	(課題) 演習後の振り返り 課題レポート
		各コマにおける授業予定	清潔援助の演習②全身清拭・寝衣交換 模擬患者に実施		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	状況に応じて、清潔援助を実施する必要性を理解し、部分的な清潔援助の基礎知識と援助の方法を習得する。	基礎看護技術Ⅱ DVD	(課題) 足浴・洗髪の演習手順書の作成 講義内容の復習(小テスト実施)
		各コマにおける授業予定	清潔援助の実際～部分浴 手浴・足浴、洗髪		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	洗髪の援助技術を模擬患者に実施して技術の方法を習得し、看護に必要な根拠を明らかにする。 実施した援助の評価する方法を学ぶ。	基礎看護技術Ⅱ 援助に必要な物品 DVD	(課題) 演習後の振り返り 課題レポート
		各コマにおける授業予定	清潔援助の演習③～洗髪 模擬患者に実施		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	足浴の援助技術を模擬患者に実施して技術の方法を習得し、看護に必要な根拠を明らかにする。 実施した援助の評価する方法を学ぶ。	基礎看護技術Ⅱ 援助に必要な物品	(課題) 演習後の振り返り 課題レポート
		各コマにおける授業予定	生活援助の演習④～足浴 模擬患者に実施		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	状況に応じて、清潔援助を実施する必要性を理解し、部分的な清潔援助の基礎知識と援助の方法(陰部洗浄)を習得する。	基礎看護技術Ⅱ DVD	(課題) 陰部洗浄の演習手順書の作成 講義内容の復習(小テスト実施)
		各コマにおける授業予定	清潔援助の実際～陰部洗浄		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	陰部洗浄とおむつ交換の援助技術を実施して技術の方法を習得し、看護に必要な根拠を明らかにする。 実施した援助の評価する方法を学ぶ。	シュミレーター 援助に必要な物品	(課題) 演習後の振り返り
		各コマにおける授業予定	清潔援助の演習⑤～陰部洗浄・おむつ交換 シュミレーターと模擬患者で実施		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	診療の補助技術		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	教室・基礎看護実習室
担 当 教 員	榎 健二 森本 彩子	実務経験と その関連資格	看護師。病棟勤務、訪問看護を経験。 助産師。病院勤務。			
《授業科目における学習内容》 人々の健康を促進するために必要な、診療の補助行為に関わる基礎知識と援助方法を学習する。検査を受ける人への援助、薬物療法が必要な人に対して、安全に薬剤投与が実施できるようにする。注射・採血・輸血の管理に関する基礎知識を理解し、実際に実施ができる。また、創傷管理(褥瘡を含む)の基礎知識並びに援助技術について学び、安全で安楽に療養生活を送ることができるような看護を学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》 小テスト・課題提出状況並びに内容・技術演習参加状況・筆記試験により総合的に評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえるVol.1 基礎看護技術 メディックメディア						
《授業外における学習方法》 講義前に事前課題(演習手順書・課題レポート)を提示する。 演習後は、演習後の振り返り課題を提示する。						
《履修に当たっての留意点》 解剖生理学の知識を活用し、注射及び採血時の合併症や注意点を理解し実施ができる。事故防止のための6Rの安全確認を身につけることができる。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	検査の基礎知識や検体検査について学ぶ。 検体検査の種類と検体の採取、取り扱いについての基礎知識を習得する。	テキスト	(課題) 講義の復習(小テスト実施)	
		各コマにおける授業予定	検査の基礎知識 検査時の援助 検体検査(尿・便・血液・喀痰)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	検査・治療の意義および検査・治療における看護師の役割について習得する。	テキスト	(課題) 課題レポート 講義の復習(小テスト実施)	
		各コマにおける授業予定	検体検査の種類と援助方法 X線検査・CT・MRI・内視鏡・超音波検査			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	各検査の目的・特徴・看護の基礎知識を習得する。	テキスト	(課題) 課題レポート	
		各コマにおける授業予定	生体検査の種類と援助 スパイメトリー・核医学検査・穿刺検査(腹腔・胸腔・腰椎・骨髄)・組織検査	DVD	講義の復習(小テスト実施)	
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	皮膚・創傷管理・褥瘡・褥瘡評価の基礎知識を学び、創傷処置の方法、包帯法を習得する。	テキスト	(課題) 課題レポート	
		各コマにおける授業予定	皮膚・創傷管理の基礎知識 創傷処置の方法 褥瘡・褥瘡評価	DVD	創傷処置の手順書作成	
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	包帯法の基礎知識を習得する。	テキスト 補助教材(配布資料)	(課題) 課題レポート	
		各コマにおける授業予定	包帯法(一部演習)	DVD	包帯法の手順書作成 講義の復習(小テスト実施)	

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標 創傷処置・包帯法の一部を模擬患者で、実践する。	演習に必要な物品	(課題) 演習後の振り返り
	各コマにおける授業予定	創傷処置・包帯法の演習		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 与薬方法の種類とそれぞれの投与方法について説明ができる	テキスト 補助教材(配布資料)	(課題) 経口投与、口腔内投与の特徴を調べる
	各コマにおける授業予定	与薬の基礎知識と薬物療法における看護師の役割 薬剤の管理方法、経口与薬・口腔内与薬・吸入・点眼・点鼻・ 経皮的投与・直腸内投与の特徴と援助の基礎知識		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 血液検査の種類とその特徴を説明することができる	テキスト 補助教材(配布資料)	(課題) 静脈血採血に適している静脈の部位を調べる
	各コマにおける授業予定	血液検査(静脈血採血・動脈血採血・血糖測定)時の援助の実際 注射の種類・安全な注射の原則(6R)・注射器と注射針の種類と構造 輸血管理における援助の基礎知識		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 静脈血の採血(検体採取)の実習を行う	DVD 採血用シュミレーター(上肢・初心者用パッド)	(課題) 演習時のチェックリスト 演習後グループでの振り返り気づきをまとめ発表する
	各コマにおける授業予定	採血方法の演習① 注射器・注射針の取り扱い方 シリンジを使用した静脈血採血の実際(採血用シュミレーター使用)		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標 静脈血の採血(検体採取)の実習を行う	採血用シュミレーター(上肢・初心者用パッド)	(課題) 演習時のチェックリスト 演習後グループでの振り返り気づきをまとめ発表する
	各コマにおける授業予定	採血方法の演習② 注射器・注射針の取り扱い方 シリンジを使用した静脈血採血の実際(採血用シュミレーター使用)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標 皮下注射と筋肉内注射の注射部位、注射方法の違いが説明できる	テキスト 補助教材(配布資料) DVD	(課題) 筋肉内注射に使用する三角筋、中臀筋周囲の解剖生理を調べ学習
	各コマにおける授業予定	注射方法の基礎知識① 注射の実施方法(皮下注射・筋肉内注射)		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標 アンプルから薬液を吸い上げて皮下注射の実習を行う	皮下注射用パッド 演習に必要な物品	(課題) アンプルから薬液を注射器で吸い上げるときの注意点をテキストから調べる
	各コマにおける授業予定	注射方法の演習③ アンプルの吸い上げ方 皮下注射の実施方法(シュミレーター使用)		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標 バイアルの薬剤を溶解し吸い上げて筋肉内注射の実習を行う	筋肉内注射用シュミレーター(臀部モデル) 演習に必要な物品	(課題)バイアルの特徴と溶解時の注意点、吸い上げる時の留意点を調べる
	各コマにおける授業予定	注射方法の演習④ バイアルの溶解方法とバイアルからの吸い上げ方 筋肉内注射の実施方法(シュミレーター使用)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標 静脈内注射についてその種類と特徴を説明することができる	テキスト 補助教材(配布資料) DVD	(課題) 点滴セットの種類による滴下数の計算方法(練習問題)
	各コマにおける授業予定	注射方法の基礎知識② 注射の実施方法(静脈内注射・点滴静脈内注射) 点滴の滴下数の計算方法		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標 翼状針による点滴静脈内注射の実習を行う	採血用シュミレーター(上肢・初心者用パッド)	(課題) 点滴静脈内注射の手順書を作成する
	各コマにおける授業予定	注射方法の演習⑤ プラスチックアンプルの吸い上げ方 点滴の滴下数の調節方法 翼状針による点滴静脈内注射の実施方法(シュミレーターを使用)		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	臨床看護技術 I	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生	学期及び曜時限	後期	教室名	教室・基礎看護実習室
担 当 教 員	森本 彩子	実務経験と その関連資格	看護師・助産師。病院勤務。		
《授業科目における学習内容》 看護の基本として様々な健康上のニーズを持つあらゆる年齢層の人々に既習の基本的な看護の考え方や知識・技術を統合して応用するプロセスや看護の実際・実践を学ぶ。 看護の対象者の健康レベルは、常に変動している。健康レベルが何らかの治療が必要となる程度の変化をきたす場合、その健康レベルの変化にはいくつかの特徴が見られる。その健康段階に応じた看護を学習する。					
《成績評価の方法と基準》 出席ならびに課題提出状況並びに内容・演習参加態度・筆記試験で総合的に評価					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 系統学看護学講座 専門 I 基礎看護技術 II 基礎看護学③ 医学書院 系統学看護学講座 専門 I 臨床看護総論 基礎看護学④ 医学書院					
《授業外における学習方法》 講義前に事前課題(レポート課題・演習の手順書作成)などを提示する。演習後は、演習後の振り返り課題を提示する。					
《履修に当たっての留意点》 課題の提出期限を厳守すること。					
授業の 方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	授業を 通じての 到達目標	臨床看護の意義と目的を理解する。 ライフサイクル各期の特徴と必要とされる援助を学ぶ。	テキスト	(課題) ライフサイクル について教科書予習	
	各コマに おける 授業予定	臨床看護とは ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズ 生活と療養の場からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ			
第 2 回	授業を 通じての 到達目標	健康状態の経過別各期の特徴と必要とされる援助を学ぶ。	テキスト	(課題) 健康状態別経 過について教科書予習	
	各コマに おける 授業予定	健康状態の経過に基づく看護 健康の維持・増進を旨とする看護			
第 3 回	授業を 通じての 到達目標	健康状態の経過別各期の特徴と必要とされる援助を学ぶ。	テキスト	(課題) 健康状態別経 過について教科書予習	
	各コマに おける 授業予定	健康状態の経過に基づく看護 健康の維持・増進を旨とする看護			
第 4 回	授業を 通じての 到達目標	心肺蘇生法(AED)を習得する	テキスト DVD	(課題) 心肺蘇生法 (AED)について教科書 予習	
	各コマに おける 授業予定	看護援助 心肺蘇生法(AED)			
第 5 回	授業を 通じての 到達目標	死の看取りの援助方法を習得する	テキスト DVD	(課題) 見取りの援助 について教科書予習	
	各コマに おける 授業予定	死の看取りの援助			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	死後の処置方法を習得する	テキスト DVD	(課題) 死後の処置方法について教科書予習
		各コマにおける授業予定	死後の処置		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	止血法を習得する。	テキスト DVD	(課題) 止血法について教科書予習 総合演習を振り返りレポート
		各コマにおける授業予定	止血法 まとめ		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定	終講試験		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	臨床看護技術Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	教室・実習室
担 当 教 員	横田 理香	実務経験とその関連資格	看護師。急性期病棟・慢性期病棟で勤務。			
《授業科目における学習内容》						
人々の健康を促進するために必要な診療の補助行為に関わる援助方法の基本について学ぶ。主要症状に対して、人間の解剖生理学的メカニズムを理解し、対象の症状を改善するために必要な援助方法を習得する。また、今日の医療機器の発展は目覚しく多くの医療現場で使用されている。ME機器をどのような点に留意して患者に用いるのか、使用時の援助方法を学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
出席ならびに課題提出状況並びに内容・演習参加態度・筆記試験で総合的に評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統学看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 系統学看護学講座 専門Ⅰ 臨床看護総論 基礎看護学④ 医学書院						
《授業外における学習方法》						
テキストを読み予習してから授業に臨むこと。復習を行うこと。						
《履修に当たっての留意点》						
積極的に授業に取り組むこと。提出物の期限を厳守すること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	痛みのメカニズム・アセスメントについて理解し説明できる	系統学看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ・臨床看護総論 医学書院	痛みの事例について事前学習 レポート課題	
		各コマにおける授業予定	1. 痛みの生理学的メカニズム 2. 痛みに関するアセスメント			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	痛みのある患者の看護について理解し説明できる。	系統学看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ・臨床看護総論 医学書院	授業内容の復習(小テストの勉強) 呼吸器の解剖生理学の予習	
		各コマにおける授業予定	1. 痛みに影響をする心理的要因 2. 痛みの治療 3. 痛みを持つ患者の看護			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸障害を持つ患者のメカニズム・疾患について学び理解できる	系統学看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ・臨床看護総論 医学書院	授業内容の復習 呼吸障害の看護について教科書で予習学習	
		各コマにおける授業予定	1. 呼吸機能障害に関連する症状のメカニズム 2. 呼吸機能障害に関連する看護上のニーズ			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	呼吸障害を持つ患者の看護について共有し説明できる	系統学看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ・臨床看護総論 医学書院	レポート課題	
		各コマにおける授業予定	1. 呼吸を楽にする方法の選択 2. 呼吸障害を持つ患者の看護			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環器を理解し、アセスメントすることができる。	系統学看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ・臨床看護総論 医学書院	授業の内容の復習(小テストの勉強) 循環器の解剖生理学の予習	
		各コマにおける授業予定	1. 循環の生理学的メカニズム 2. 循環に関連するアセスメント			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 循環障害を持つ患者の看護を学び、看護について説明できる。	系統学看護学講 専門Ⅰ 基礎看 護技術Ⅱ・臨床 看護総論 医学 書院	
	各コマにおける授業予定	1. 循環障害を持つ患者の看護		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 排泄障害を持つ患者の看護について事例を通し、共有し説明できる	系統学看護学講 専門Ⅰ 基礎看 護技術Ⅱ・臨床 看護総論 医学 書院	授業の内容の復習(小 テストの勉強)
	各コマにおける授業予定	1. 排尿障害のある患者の看護 2. 便秘の患者の事例		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 消化吸収について理解し、アセスメントできる。	系統学看護学講 専門Ⅰ 基礎看 護技術Ⅱ・臨床 看護総論 医学 書院	消化吸収障害の看護に ついて教科書で予習
	各コマにおける授業予定	1. 消化吸収・排泄の生理学的メカニズム 2. 栄養障害について		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 意識障害のメカニズムを理解し、アセスメントできる	系統学看護学講 専門Ⅰ 基礎看 護技術Ⅱ・臨床 看護総論 医学 書院	授業の内容の復習(小 テストの勉強)
	各コマにおける授業予定	1. 意識障害のメカニズム 2. 意識障害に関連するアセスメント		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 意識障害のある患者の看護を理解し説明できる	系統学看護学講 専門Ⅰ 基礎看 護技術Ⅱ・臨床 看護総論 医学 書院	
	各コマにおける授業予定	1. 意識障害を持つ患者の看護		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 ME機器の原理と実際を学び説明できる	系統学看護学講 専門Ⅰ 基礎看 護技術Ⅱ・臨床 看護総論 医学 書院 ME機器 DVD	レポート課題
	各コマにおける授業予定	1. 医療機器の使用目的 2. 医療機器の原理		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 測定用医療機器を実際に触れ、原理と実際を学び共有できる	系統学看護学講 専門Ⅰ 基礎看 護技術Ⅱ・臨床 看護総論 医学 書院 ME機器 DVD	12誘導心電図測定演習 の手順書の作成
	各コマにおける授業予定	1. 医療機器の使用手法 2. 医療機器の保守点検		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 シュミレーションを使用し12誘導心電図の技術を理解し、グループで共有できる	系統学看護学講 専門Ⅰ 基礎看 護技術Ⅱ・臨床 看護総論 医学 書院 シュミレーション	演習後の振り返りレ ポート 吸引演習の手順書作成
	各コマにおける授業予定	フィジコを用いた12誘導心電図の実施		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標 シュミレーションを使用し吸引の技術を理解でき、共有できる	系統学看護学講 専門Ⅰ 基礎看 護技術Ⅱ・臨床 看護総論 医学 書院 シュミレーション	レポート課題
	各コマにおける授業予定	1. 口腔・鼻腔内吸引の実施 2. 閉鎖式気管内吸引の実施		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標 シュミレーションを使用し吸引の技術を理解でき、共有できる	系統学看護学講 専門Ⅰ 基礎看 護技術Ⅱ・臨床 看護総論 医学 書院 シュミレーション	演習後の振り返りレ ポート
	各コマにおける授業予定	1. 口腔・鼻腔内吸引の実施 2. 閉鎖式気管内吸引の実施		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	地域・在宅看護概論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	通年	教室名	1年教室 / 他
担 当 教 員	七瀬 光美	実務経験とその関連資格	看護師、介護支援専門員。医療型療養病棟、総合内科で勤務。			
《授業科目における学習内容》						
地域で実践する看護活動の場とさまざまな職種連携の実際を理解し、地域包括ケアシステムの概念を学ぶ。所在する学校周辺の地域の生活圏・生活環境を知るためにフィールドワークにて、地域の特性、文化、その地域で暮らす人々の生活の様子、健康への意識、環境が与える健康への影響などを理解する。また、グループワークを通して調べ学習や地域に出向き実態調査の実施や地域の人たちへのインタビュー、公的機関、民間企業の場合へ訪問などをして現状を把握し、自助・互助・の在り方、地域の特性からわかる健康問題などを探求する。						
《成績評価の方法と基準》						
出席状況、課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統別看護学講座 地域在宅看護1・II 医学書院 ナーシンググラフィカ 在宅看護論①地域を支えるケア メディカ出版 地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド 医歯薬出版						
《授業外における学習方法》						
講義の復溜と予習 課題提示したレポート作成						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域看護の目的や変遷について理解することができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと 介護保険法の基礎知識 小テストで確認する	
		各コマにおける授業予定	地域看護の目的・変遷			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域包括システムの概念を理解し、基本的なことが説明できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	地域包括ケアシステムの概念			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域で活動する看護師の役割や活動の場について説明できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	地域で実践する看護活動の場と看護師の役割			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域在宅看護の対象、地域での暮らしや文化を理解できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	地域在宅看護の対象 地域の人々の暮らし・文化(コミュニティ・生活圏)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	インタビューや訪問マナーを学び実践で活用できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	訪問時のマナー・接遇・インタビューの仕方 演習・ロールプレイ レポート事前課題 接遇・マナーについて調べてまとめる			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 地域の暮らしや文化を調べ、インタビュー内容を作成できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	身近な地域の人々の暮らし・文化を調べよう GW・インタビュー内容の作成		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 インタビューした内容から、地域での暮らし文化について理解できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	身近な地域の人々との交流 地域での暮らし文化についてインタビューして実際に知ろう インタビュー後の振り返り レポート		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 グループ発表したこと内容を共有し、理解を深めることができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	まとめ 発表 身近な地域の人々との交流したことのグループ発表		
第9回	講義 形式	授業を通じての到達目標 暮らし・環境が与える健康への影響、地域での健康支援について説明できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	暮らしと環境が健康に与える影響 地域で暮らす人々の健康とその支援		
第10回	講義 形式	授業を通じての到達目標 地域保健医療福祉行政と活動に関する法律を理解できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	地域保健医療福祉行政と活動に関する法律		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 グループワークにて地域で実践されている健康支援について調べ、その調べたことを説明できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	地域で実践されている健康に関する支援を調べよう GW		
第12回	講義 形式	授業を通じての到達目標 地域包括ケアシステムに関係するさまざまな機関の役割を理解し、実際に訪問するときの準備ができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	地域包括ケアシステムに関するさまざまな機関と役割 レポート課題 本日の講義内容をまとめる		
第13回	講義 形式	授業を通じての到達目標 地域保健医療福祉ネットワークし、さまざまな療養の場を説明できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	さまざまな療養の場と地域保健医療福祉ネットワーク 社会資源の活用		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 地域包括ケアシステムに関係するさまざまな機関を訪問して、各機関の役割を理解することができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	身近な地域での保健医療福祉のさまざまな機関と地域包括ケアシステムの実際を調べよう グループで地域に出かけて関係する機関を訪問してみよう		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 地域包括ケアシステムに関係するさまざまな機関を訪問して、各機関の役割を理解することができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	身近な地域での保健医療福祉のさまざまな機関と地域包括ケアシステムの実際を調べよう グループで地域に出かけて関係する機関を訪問してみよう		

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第16回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 地域看護に必要な理論・地域包括支援センターの役割を理解できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定 地域看護に必要な理論・地域包括支援センターの役割 身近な地域特性を調べよう GW		
第17回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 地区踏査をして地域の特性を理解することができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定 身近な地域特性の調査(地区踏査) 産業・対象の特性・生活支援を支える行政や民間の実態		
第18回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 地区踏査をして地域の特性を理解することができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定 身近な地域特性の調査(地区踏査) 産業・対象の特性・生活支援を支える行政や民間の実態		
第19回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 グループ発表したこと内容を共有し、理解を深めることができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定 まとめ 発表		
第20回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 対象別の保健活動し、地域での健康づくり支援について説明できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定 対象別の保健活動 地域の健康づくりを推進するための地区組織育成活動 GWで地域の健康づくりを推進するための地区組織育成活動の 実際を調べよう		
第21回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 イベントを実施するための計画立案をすることができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定 身近な地域での健康づくり支援 学生が企画運営をするイベントの内容計画 ふれあいサロン・介護認知症予防など 振り返りレポート		
第22回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 イベント企画したことが実践できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定 身近な地域での健康づくり支援 学生が企画運営をするイベントの実施 ふれあいサロン・介護認知症予防など 振り返りレポート		
第23回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 グループ発表したこと内容を共有し、理解を深めることができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定 まとめ 発表		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	成人看護学概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	1年教室
担 当 教 員	曾 紅	実務経験と その関連資格	看護師、集中ケア認定看護師。CCU、SCUで勤務。			
《授業科目における学習内容》						
「成人とは何か」、ライフサイクルの中で成人期の発達段階、成長・発達の特徴、成人期の健康問題を理解する。生活者としての視点から成人をとらえ、価値観・健康観の多様性に応じた看護および生活と健康を守る保健・医療・福祉システムについて 学習する。2年次の成人看護学援助論の基礎となる内容である。						
《成績評価の方法と基準》						
演習参加状況、レポート課題提出状況、小テスト、並びに筆記試験で総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会						
《授業外における学習方法》						
教科書を読み込み、復習をして、主体的に学習に取り組む。						
《履修に当たっての留意点》						
成人看護の対象と役割を理解するためには、基礎分野－人間の生活・社会の理解、専門基礎分野－人体の構造と機能・疾病の成り立ち・健康支援と社会保障制度、専門分野－基礎看護学と関連づける。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	授業を 通じての 到達目標	「大人とは」、成人期の発達段階と発達課題を述べるができる。		成人看護学総論 授業資料	講義後の復習をして講 義内容をまとめる	
	各コマに おける 授業予定	カリキュラムにおける成人看護学の位置づけ 生涯発達の特徴 各発達段階の枠組みについて				
第 2 回	授業を 通じての 到達目標	成人期にある人の特徴を説明できる。		成人看護学総論 授業資料	講義後の復習をして講 義内容をまとめる	
	各コマに おける 授業予定	成人期にある対象の成長・発達の特徴 グループワーク・個人ワーク 1)身体的特徴・精神的特徴・社会的特徴 2)発達理論(エリクソン、ハヴィガースト、レビンソン)				
第 3 回	授業を 通じての 到達目標	成人期にある人の特徴を説明できる。		成人看護学総論 授業資料	講義後の復習をして講 義内容をまとめる	
	各コマに おける 授業予定	成人期にある対象の成長発達の特徴 発表 1)身体的特徴・精神的特徴・社会的特徴 2)発達理論(エリクソン、ハヴィガースト、レビンソン)				
第 4 回	授業を 通じての 到達目標	成人期にある人の生活について述べるができる。		成人看護学総論 資料	講義後の復習をして講 義内容をまとめる	
	各コマに おける 授業予定	働いて生活を営むこと 家族からとらえる大人について 人生をたどること				
第 5 回	授業を 通じての 到達目標	成人を取り巻く社会的動向と成人の生活について説明できる。		成人看護学総論 国民衛生の動向 資料	講義後の復習をして講 義内容をまとめる	
	各コマに おける 授業予定	成人を取り巻く環境と生活の状況 成人の健康の状況 成人保健の動向				

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 成人期にある人の生活と健康問題について述べるができる。	成人看護学総論 国民衛生の動向 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	ライフスタイルと健康① 1)生活習慣に関する一食生活・運動習慣・喫煙・飲酒・ソーシャルメディアと依存		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 成人期にある人の生活と健康問題について述べるができる。	成人看護学総論 国民衛生の動向 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	ライフスタイルと健康② 1)職業、仕事をめぐる状況 2)ストレス・コーピング 3)セクシャリティ		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標 成人期にある人の健康を守るシステムについて述べるができる。	成人看護学総論 国民衛生の動向 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	生活と健康を守りはぐくむ保健・医療・福祉システム		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 成人期にある人への看護アプローチの基本について述べるができる。	成人看護学総論 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	アンドラゴジー(成人教育学)、行動変容、チームアプローチ、倫理的判断、意思決定支援、家族支援		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標 成人期にある人の健康レベルに対応した看護を述べるができる。	成人看護学総論 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	ヘルスプロモーションとは ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護を述べるができる。	成人看護学総論 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	生命の危機状況 急性期にある人の看護 危機理論		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標 慢性病との共存を支える看護を述べるができる。	成人看護学総論 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	病みの軌跡、健康信念モデル エンパワメント セルフケアとセルフマネジメント		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標 障害がある人の生活とリハビリテーション看護を述べるができる。	成人看護学総論 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	障害がある人の理解 その生活を支援する看護		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標 人生最後のときを支える看護について述べるができる。	成人看護学総論 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	QOLの考え方 全人的苦痛とは 意思決定支援と看護師の役割 アドバンスケアプランニング		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標 療養の場を移行する人への看護について述べるができる。 成人看護の目的・役割を述べるができる。	成人看護学総論 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	退院支援とは まとめー成人看護の目的と役割		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	老年看護学概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	1年教室
担 当 教 員	山田 英美	実務経験と その関連資格	看護師。内科、外科、整形外科、小児科病棟と病院勤務。			
《授業科目における学習内容》						
高齢者を統合的に理解し、高齢者の健康と生活を支える看護職者としての基本的な考えを学ぶ						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験・課題レポートにより評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 ナーシンググラフィカ 老年看護学 老年看護の実際 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 老年看護学 高齢者の健康と障害 メディカ出版						
《授業外における学習方法》						
演習・講義の振り返り						
《履修に当たっての留意点》						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	高齢者の特性を理解し、イメージを肯定的に述べるができる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講 義内容をまとめる	
		各コマに おける 授業予定	高齢者の特徴 老いとは・高齢者のイメージ・高齢者の定義・高齢者の生きてきた時代			
第2回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	高齢者の発達段階や加齢に伴う身体・心理・社会的側面を説明できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講 義内容をまとめる	
		各コマに おける 授業予定	加齢と老化・発達と成熟、加齢に伴う身体・心理・社会的側面 老年の発達課題・スピリチュアリティ			
第3回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	高齢者の喪失体験を理解し、高齢社会の構造を説明できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講 義内容をまとめる	
		各コマに おける 授業予定	高齢者の喪失体験、健康寿命平均余命、高齢者の世帯 高齢社会の構造			
第4回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	高齢者の健康や暮らし方について述べるができる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講 義内容をまとめる	
		各コマに おける 授業予定	高齢者の健康・暮らし方			
第5回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	高齢者保健医療福祉の変遷を理解し、推進について述べる ことができる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講 義内容をまとめる	
		各コマに おける 授業予定	高齢者の保健医療福祉の変遷と推進			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 介護保険のしくみや目的など基本的なことを説明できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定 在宅医療ピンピンコロリ DVD 介護保険① 介護保険の目的・サービス導入の経緯 介護保険の基本的な知識		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 介護保険の概要を述べることができる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定 介護保険② 介護保険の概要・サービスの仕組み		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 介護保険サービスについて説明できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定 介護保険③サービスの概要		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 地域包括ケアシステムにおける多職種連携について述べられる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定 地域包括ケアシステムの中での多職種連携		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 地域連携の必要性を理解し、退院時の看護を説明できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定 地域連携における退院時の看護		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標 高齢者の生活機能、入院時のスクリーニングのことを説明できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定 高齢者の生活機能のアセスメント 入院時のスクリーニング		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標 老年看護に活用できる理論・アプローチについて述べるができる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定 老年看護に活用できる理論・アプローチ		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標 介護予防・フレイルサイクル・ロコモティブシンドロームについて説明できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定 高齢者のヘルスポロモーション 介護予防・フレイルサイクル・ロコモティブシンドローム		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標 高齢者の虐待・成年後見制度のことを説明できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定 高齢者の権利擁護(アドボカシー) 高齢者の虐待・成年後見制度・老年観		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 社会資源の活用方法を述べるができる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定 まとめ GW～事例をもとに介護保険サービスについて学び、社会資源の活用について考える		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	看護研究 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担 当 教 員	曾 紅	実務経験とその関連資格	看護師、集中ケア認定看護師。CCU、SCUで勤務。			
《授業科目における学習内容》						
看護研究ついて、方法論の基礎を学習し、看護の質の向上や科学的根拠に基づく看護を目指す姿勢を養う						
演習参加状況、レポート課題提出状況、小テスト、並びに筆記試験で総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論 医学書院 よくわかる看護研究の進め方、まとめ方 MDP 看護研究サポートブック 照林社						
《授業外における学習方法》						
インターネットや他業者の教科書参照						
《履修に当たっての留意点》						
提出期限を厳守すること						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	看護研究の必要性について説明することができる	看護研究サポートブック 照林社	教科書で予習する	
		各コマにおける授業予定	1. 研究とは 2. 研究の意義 3. 看護研究の意義 4. 看護研究の目的			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	研究方法の種類について説明できる	看護研究サポートブック 照林社	教科書・参考書で予習・復習する	
		各コマにおける授業予定	1. 研究領域 2. 研究の導き方 3. データの性質 4. 研究方法から見た研究方法			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	文献検索の方法について説明できる	看護研究サポートブック 照林社	教科書・参考書で予習・復習する	
		各コマにおける授業予定	1. 文献とその意義 2. 文献の種類 3. 文献を読む目的 4. 文献の研鑽			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	文献クリティークができる	看護研究サポートブック 照林社	研究計画書を完成させる	
		各コマにおける授業予定	5. 文献の読み方 6. 文献クリティーク			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	研究計画書の意義と書き方について説明できる	看護研究サポートブック 照林社	教科書で予習・復習する	
		各コマにおける授業予定	1. 研究の動機 2. 研究テーマ 3. 研究計画書			

授業の方法			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 研究における倫理的配慮について説明できる	看護研究サポートブック 照林社	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定 1. 研究における倫理的原則 2. 研究プロセスで求められる倫理的配慮		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標 研究テーマを決定できる	看護研究サポートブック 照林社	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定 グループメンバーで看護に関連した研究課題を明確化する		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 研究計画書を作成できる	看護研究サポートブック 照林社	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定 研究テーマの決定 研究計画書作成		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 計画にそって研究ができる	看護研究サポートブック 照林社	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定 文献検討、データ収集		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 計画にそって研究ができる	看護研究サポートブック 照林社	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定 データ収集		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標 計画にそって研究ができる	看護研究サポートブック 照林社	決定したテーマについて調べる
		各コマにおける授業予定 データ分析		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標 計画にそって研究ができる	看護研究サポートブック 照林社	看護研究を進める
		各コマにおける授業予定 データ分析 考察		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標 計画にそって研究ができる	看護研究サポートブック 照林社	まとめ発表原稿の作成
		各コマにおける授業予定 プレゼンテーション資料の作成(パワーポイント)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標 プレゼンテーションができる	看護研究サポートブック 照林社	まとめ発表原稿の作成
		各コマにおける授業予定 研究発表		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 他者の研究をクリティカルに聞ける	看護研究サポートブック 照林社	他グループの発表を聞き見聞を深める
		各コマにおける授業予定 研究発表		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	小児看護学概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	竹内 美和	実務経験と その関連資格	看護師。神経内科病棟、放射線治療施設で勤務。□			
《授業科目における学習内容》						
子どもを発達していく存在としてとらえる。また、子どもが社会の中で健やかに成長・発達を遂げる権利を理解し、子どもと家族の健康な生活への支援のための基礎知識を学ぶ。また、成長、発達の特徴や、課題、看護について理解を深める						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験(90%) 課題レポート、授業態度、出席状況(10%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
小児看護学概論 小児臨牀看護総論(医学書院) ナーシンググラフィカ・小児の発達と看護						
《授業外における学習方法》						
教科書を事前に読み、子どもに対してのイメージを深める 課題の実施、教科書を中心にしっかり調べ、学習する						
《履修に当たっての留意点》						
意見交換グループワークなど活発に自分の思いや考えを発表してください。 授業での課題は点数化するので提出期限をしっかり守りましょう						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	小児看護の対象を理解し、目的と看護師の役割について知識を深める	テキスト PPT資料	諸統計についての事前課題	
		各コマにおける授業予定	小児看護の対象、目標と役割 小児と家族の諸統計 小児看護の変遷			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	小児看護の中で用いられる理論について理解を深める 小児看護の課題を理解する	テキスト PPT資料	本授業範囲の本読み	
		各コマにおける授業予定	小児看護における倫理 小児看護の課題 社会の変化と小児看護			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもの成長・発達過程を知ることの重要性について理解を深めることができる	テキスト PPT資料	歯の名称について事前課題	
		各コマにおける授業予定	成長、発達とは 成長発達の進み方 成長、発達に影響する因子			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもの成長・発達過程を知ることの重要性について理解を深めることができる	テキスト PPT資料	子どもの栄養に関する事前課題	
		各コマにおける授業予定	成長の評価(身長・体重・頭囲・胸囲・生歯・骨) 発達の評価と方法			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	新生児期の日常生活についての援助方法について理解を示すことができる	テキスト PPT資料	本授業範囲の本読み	
		各コマにおける授業予定	新生児の形態的特徴、身体生理の特徴 各機能の発達、日常生活、愛着形成			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 乳児期の成長・発達の特徴、課題について理解を深めることができる	テキスト DVD	本授業範囲の本読み
		各コマにおける授業予定 乳児期の形態的特徴、身体生理の特徴、各機能の発達		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 乳児期の子どもと家族の看護について理解を深めることができる	テキスト DVD	本授業の範囲の本読み
		各コマにおける授業予定 乳児期の養育及び看護 遊びの支援 事故防止、育児支援		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 幼児期の成長・発達の特徴、課題について理解を深めることができる	テキスト PPT資料	本授業範囲の本読み
		各コマにおける授業予定 幼児期の形態的特徴、身体生理の特徴 感覚、運動、知的、情緒・社会的機能		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 幼児期の子どもと家族の看護について理解を深めることができる	テキスト PPT資料	本授業範囲の本読み
		各コマにおける授業予定 幼児期の養育看護について グループワーク(幼児体験)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 学童期の身体的特徴及び、子どもと家族に監護について理解を示すことができる	テキスト PPT資料	本授業範囲の本読み
		各コマにおける授業予定 学童期の形態的特徴、生体機能の特徴、感覚運動機能、知的情緒、養育及び看護		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標 思春期の特徴、心理・社会的適応に関する問題について理解を深めることができる	テキスト PPT資料	第二性徴についての事前課題(男性)
		各コマにおける授業予定 形態的特徴、知的、情緒的、社会的機能		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標 思春期の子どもと家族の看護について理解を深めることができる	テキスト PPT資料	子どもを取り巻く環境について学習する
		各コマにおける授業予定 思春期・青年期における形態的、身体生理の特徴 心理社会的逸脱行動、及び看護		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標 家族の特徴とアセスメントについて理解を示すことができる	テキスト PPT資料	虐待に関する、記事などを通し理解を深める
		各コマにおける授業予定 子どもにとっての家族 家族アセスメント グループワーク(虐待に関する事例)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標 子どもと家族を取り巻く社会について、理解を深めることができる	テキスト PPT資料	予防接種の内容について事前課題
		各コマにおける授業予定 児童福祉法、母子保健、医療費の支援		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標 予防接種・学校保健の歴史について知ることができるまとめ	テキスト PPT資料	学校保健に関する学習
		各コマにおける授業予定 予防接種、学校保健、食育、特別支援、臓器移植法 まとめ		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専 門 分 野	授 業 の 方 法	講 義
科 目 名	小児看護学援助論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	竹内 美和	実務経験と その関連資格	看護師。神経内科病棟、放射線治療施設で勤務。□			
《授業科目における学習内容》						
成長発達過程にある小児と家族の看護について、入院や検査・治療をはじめとし、健康段階や障害、在宅など様々な状況から理解する。 子どもと家族について、保険・医療・福祉・教育の面から多角的に考え子どもの権利条約と重ねて学ぶ						
《成績評価の方法と基準》						
小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門基礎分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護 ナーシンググラフィカ 小児看護学 小児の発達と看護						
《授業外における学習方法》						
講義前に事前課題を提出する。また講義後は少テスト、ミニレポートの提出を行い、授業内容の予習・復習をする。						
《履修に当たっての留意点》						
病気・障害をもつ子どもの環境について考えを深めることができるよう、こどもに関するニュース、記事を読む						
授業の 方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容		
第1回	授業を 通じての 到達目標	病気や障害のある子どもは、症状や治療による様々な苦痛、 悲しみ、ストレスなどを伴う事について理解を深める	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を 行う		
	各コマに おける 授業予定	病気、障害を持つ小児と家族の看護 病気・障害に対する子ども及び、家族の反応 小児の健康問題と看護				
第2回	授業を 通じての 到達目標	病気や、入院にに伴う家族への看護について理解を深める	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を 行う		
	各コマに おける 授業予定	入院中の子どもと家族の看護 外来における子どもと家族の看護				
第3回	授業を 通じての 到達目標	小児在宅医療の現状と課題、災害を受けた子どもと家族への 看護について理解を深める	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を 行う		
	各コマに おける 授業予定	在宅における子どもと家族の看護 災害を受けた子どもと家族の看護				
第4回	授業を 通じての 到達目標	慢性期にある子どもの状況的危機と発達の危機について理解 する	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を 行う		
	各コマに おける 授業予定	慢性期にある子どもと家族の看護				
第5回	授業を 通じての 到達目標	急性期にある子どもの身体への影響と状況のアセスメントの視 点、看護について理解を深める	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を 行う		
	各コマに おける 授業予定	急性期にある子どもと家族の看護 (周手術期の小児と家族の看護)				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	終末期の子どもにおける様々な生活活動の制限を知り、不安・恐怖・孤独感を最小限に行えることの必要性について理解を示す	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	終末期の小児と家族の看護 終末期の特徴・生命、死について小児のとらえ方 小児と家族の看護・小児をなくした家族の看護		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもの健康状態を判断する上で必要な看護技術について理解を示すことができる	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	小児のアセスメント アセスメントに必要な技術 コミュニケーション、バイタルサイン、身体測定、		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもの健康状態を判断する上で必要な看護技術について理解を示すことができる	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	小児のアセスメント 身体的アセスメント 一般状態・眼・耳・顔面・鼻・口腔、呼吸、心臓、血管系		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもの健康状態を判断する上で必要な看護技術について理解を示すことができる	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	小児のアセスメント 身体的アセスメント 腹部、筋骨格系・神経系・生殖器・リンパ系・皮膚、爪、体毛		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	様々な症状を示す小児の状態を把握することの重要性について理解を示す	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	小児のアセスメント 腹部、筋・骨格系、神経系、生殖器、リンパ系、皮膚・爪・体毛		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	様々な症状を示す小児の状態を把握することの重要性について理解を示す	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	症状を示す小児の看護 不機嫌、啼泣、痛み、呼吸困難、チアノーゼ、ショック グループワーク(症状別看護)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	様々な症状を示す小児の状態を把握することの重要性について理解を示す	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	症状を示す小児の看護 意識障害、経連、発熱 グループワーク(症状別看護)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	様々な症状を示す小児の状態を把握することの重要性について理解を示す	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	症状を示す小児の看護 嘔吐、便秘、下痢		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	様々な症状を示す小児の状態を把握することの重要性について理解を示す	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	症状を示す小児の看護 脱水、浮腫、出血		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	様々な症状を示す小児の状態を把握することの重要性について理解を示す まとめ	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	症状を示す小児の看護 貧血、発疹、黄疸		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	小児看護学援助論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室/実習室
担 当 教 員	竹内 美和	実務経験と その関連資格	看護師。神経内科病棟、放射線治療施設で勤務。□			
《授業科目における学習内容》						
検査、処置を受ける子どもと家族に対する看護について知識、技術、態度について学びを深める。 障害のある子どもと家族について理解し、また子どもと虐待の看護について、学びを深める						
《成績評価の方法と基準》						
小テスト・課題提出状況並びに内容・演習参加態度・筆記試験・技術試験で総合的に評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 ナーシンググラフィカ 小児看護学 小児の発達と看護						
《授業外における学習方法》						
講義前に事前課題を提出する。また講義後は少テスト、ミニレポートを行い、授業内容の予習・復習をする						
《履修に当たっての留意点》						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	子どもにとっての検査・処置について学びを深める	テキスト PPT配布資料	テキストでの予習・復習	
		各コマに おける 授業予定	検査・処置を受ける子どもの心理的側面について 看護の実際			
第2回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	小児の発達上の特徴について知り、適切な薬物動態や、薬液 量の決定について学びを深める	テキスト PPT配布資料 DVD	テキストでの予習・復習	
		各コマに おける 授業予定	薬物動態、及び与薬方法と看護(経口与薬、坐薬、注射など)			
第3回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	小児の輸液の特徴について知り、輸液管理に必要な基礎的 知識について学びを深める	テキスト PPT配布資料 DVD	テキストでの予習・復習	
		各コマに おける 授業予定	輸液、経中心静脈持続点滴、抑制、			
第4回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	検体採取に必要な基礎的知識について学ぶ	テキスト PPT配布資料 DVD	テキストでの予習・復習	
		各コマに おける 授業予定	検体採取、静脈採血など			
第5回	講義形式	授業を 通じての 到達目標	重篤な疾患の診断時に必要な基礎的知識、看護ケアについて 学びを深める	テキスト PPT配布資料 DVD	テキストでの予習・復習	
		各コマに おける 授業予定	骨髄穿刺、腰椎穿刺			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	小児看護学援助論Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室/実習室
担 当 教 員	赤木 恭美 竹内 美和	実務経験と その関連資格	看護師。脳神経外科病院SCU・ICUにて勤務。□ 看護師。神経内科病棟、放射線治療施設で勤務。□			
《授業科目における学習内容》						
小児に特有な疾患・症状の事例を挙げ、病態生理を含め、検査・治療への看護について理解を示す。代表的疾患と子どもの成長・発達を考慮して健康の回復、促進への働きかけできる知識・技術・態度について学びを深める						
《成績評価の方法と基準》						
小テスト・課題提出状況並びに内容・演習参加態度・筆記試験・技術試験で総合的に評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 ナーシンググラフィカ 小児看護学 小児の発達と看護						
《授業外における学習方法》						
講義前に事前課題を提出する。また講義後は少テスト、ミニレポートを行い、授業内容の予習・復習をする						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	遺伝性疾患・染色体異常をもつ子どもの病態・症状・治療を理解する	テキスト PPT配布資料	テキストでの予習・復習	
		各コマにおける授業予定	染色体異常、ダウン症、低出生体重児、呼吸促拍症候群			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌性疾患をもつ子どもの病態、症状、治療を理解する 免疫・アレルギー・膠原病、疾患をもつ子どもの病態、症状、治療を理解する	テキスト PPT配布資料	テキストでの予習・復習	
		各コマにおける授業予定	I型糖尿病、川崎病			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	感染性疾患の子ども病態・症状・治療を理解する	テキスト PPT配布資料	テキストでの予習・復習	
		各コマにおける授業予定	肺炎、RSウイルス感染症、気管支喘息			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環器疾患もつ子どもの病態・症状・治療を理解する	テキスト PPT配布資料	テキストでの予習・復習	
		各コマにおける授業予定	ファロー四徴症			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	腎・泌尿器疾患もつ子どもの病態・症状・治療を理解する	テキスト PPT配布資料	テキストでの予習・復習	
		各コマにおける授業予定	ネフローゼ症候群			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器疾患もつ子どもの病態・症状・治療を理解する	テキスト PPT配布資料	テキストでの予習・復習
		各コマにおける授業予定	肥厚性幽門狭窄症、腸閉塞		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	血液、造血器疾患をもつ子どもの病態・症状・治療を理解する	テキスト PPT配布資料	テキストでの予習・復習
		各コマにおける授業予定	急性リンパ性白血病		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中治療をうけるもつ子どもの病態・症状・治療を理解する	テキスト PPT配布資料	テキストでの予習・復習
		各コマにおける授業予定	心房中隔欠損症		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	痛みをもつ子どもの病態・症状・治療を理解する	テキスト PPT配布資料	テキストでの予習・復習
		各コマにおける授業予定	上腕骨顆上骨折		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	事例を通し看護の実践について理解する	テキスト PPT配布資料	テキストでの予習・復習
		各コマにおける授業予定	糖尿病、白血病、ネフローゼ症候群		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	事例を通し看護の実践について理解する	テキスト PPT配布資料	テキストでの予習・復習
		各コマにおける授業予定	糖尿病、白血病、ネフローゼ症候群		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	事例を通し看護の実践について理解する	テキスト PPT配布資料	テキストでの予習・復習
		各コマにおける授業予定	糖尿病、白血病、ネフローゼ症候群		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	事例を通し看護の実践について理解する	テキスト PPT配布資料	テキストでの予習・復習
		各コマにおける授業予定	糖尿病、白血病、ネフローゼ症候群		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	事例を通し看護の実践について理解する	テキスト PPT配布資料	テキストでの予習・復習
		各コマにおける授業予定	糖尿病、白血病、ネフローゼ症候群		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	事例を通し看護の実践について理解する まとめ	テキスト PPT配布資料	テキストでの予習・復習
		各コマにおける授業予定	糖尿病、白血病、ネフローゼ症候群 まとめ		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	成人看護学援助論 I	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生	学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室A・B
担 当 教 員	山田 英美 榎 健二	実務経験と その関連資格	看護師。内科、外科、整形外科、小児科病棟と病院勤務。 看護師。病棟勤務、訪問看護を経験。		
《授業科目における学習内容》 慢性疾患をもち生活の再構築を必要とする患者と家族を理解し、セルフマネジメントを支援するアプローチ、成人教育学・エンパワーメントモデル・自己効力理論・コミュニケーション理論を活用しながら効果的な看護介入方法について考える。 代謝疾患(糖尿病)、腎・泌尿器疾患、消化器疾患(肝硬変)をもつ人の看護について学ぶ。					
《成績評価の方法と基準》 小テスト、演習参加態度、糖尿病患者への教育指導の資料の提出、終講試験で総合的に評価。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 内分泌・代謝、腎・泌尿器、消化器 医学書院 ナーシンググラフィカ 成人看護学概論 成人看護学① ナーシンググラフィカ セルフマネジメント 成人看護学③					
《授業外における学習方法》 教科書を読み込み、復習をして、主体的に学習に取り組む。					
《履修に当たっての留意点》 セルフマネジメントの視点をもつために自分自身の周囲の人々の健康にも関心を持つ。 1年次の学習内容を復習し、セルフマネジメントを推進していく慢性期の看護展開、患者指導について理解を深めていく。					
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	慢性病患者を取り巻く生活・環境と特徴、セルフマネジメントの支援に必要な理論を述べるができる。	系統看護学講座 成人看護学総論 医学書院 資料	成人看護学概論の慢性期に関連した学習
		各コマにおける授業予定	1. 慢性期患者を取り巻く生活と環境、慢性病患者の特徴と看護 2. セルフマネジメントを支える理論 3. セルフマネジメント教育とは		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	慢性病患者への学習援助として、成人教育学とエンパワメントについて述べるができる。	教科書 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	1. セルフマネジメントを支援する成人教育学 2. セルフマネジメントを支援するエンパワメントと看護		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	セルフマネジメントを推進していく援助に必要な自己効力理論について説明できる。	教科書 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	1. 自己効力理論と看護		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	セルフマネジメントを推進していく援助に必要なコミュニケーション論と看護過程について述べるができる。	教科書 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	1. 自己効力感を高める看護のコミュニケーション論 2. セルフマネジメントを推進する過程に活用した看護過程の展開		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	腎泌尿器疾患をもつ患者の看護について述べるができる。	系統看護学講座 専門Ⅱ 腎・泌尿器 医学書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	1. 腎泌尿器疾患患者の特徴 2. 浮腫・血尿・排尿困難 主な症状に対する看護 3. 尿検査・膀胱鏡検査・生検・尿流		

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 慢性腎不全・慢性腎臓病患者の看護について述べるができる。	系統看護学講座 専門Ⅱ 腎・泌尿器 医学書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	病態生理からアセスメントの視点 看護援助ー服薬管理、食事・水分制限、感染予防、活動制限 家族支援 心理的支援 社会資源の活用		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 透析療法を受ける患者の看護について述べるができる。	系統看護学講座 専門Ⅱ 腎・泌尿器 医学書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	1. 保存期から透析導入期の患者の看護 2. 血管透析患者の看護(導入期・維持期・慢性期) 3. 腹膜透析患者の看護(導入期・維持期・慢性期) 4. 持続血液透析濾過を受ける患者の看護		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 肝炎・肝硬変をもつ患者の看護について述べるができる。	系統看護学講座 専門Ⅱ 消化器 医学書院 配布資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	1. 肝疾患患者の特徴 2. 腹痛、腹部膨満、黄疸、掻痒感 主な症状に対する看護 3. 超音波検査、造影検査 主な検査に対する看護		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 肝炎・肝硬変をもつ患者の看護について述べるができる。	系統看護学講座 専門Ⅱ 消化器 医学書院 配布資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	病態生理からアセスメントの視点 食事療法の看護、安静療法の看護、インターフェロン療法、生活指導		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 代謝系機能障害(糖尿病)をもつ患者の看護を述べるができる。	系統看護学講座 専門Ⅱ 内分泌・代謝 医学書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	1. 内分泌・代謝系疾患患者の特徴 2. 高血糖・低血糖 主な症状に対する看護 3. 糖負荷試験、血糖自己測定 主な検査に対する看護		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標 代謝系機能障害(糖尿病)をもつ患者の看護を述べるができる。	系統看護学講座 専門Ⅱ 内分泌・代謝 医学書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	病態生理からアセスメントの視点 食事療法・運動療法・薬物療法 インスリン自己注射		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標 糖尿病患者の特性を理解し、セルフマネジメントを推進していく看護について述べるができる。	系統看護学講座 専門Ⅱ 内分泌・代謝 医学書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	日常生活のコントロール状態評価・シックデイ 病状の変化と合併症の把握・フットケア 家族支援・心理社会的支援		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 糖尿病をもつ患者(事例)の教育指導について考えることができる。	系統看護学講座 専門Ⅱ 内分泌・代謝 医学書院 資料	・生体機能学Ⅱ 疾病論Ⅱ、に関連した内容 ・インスリン注射、血糖測定の技術手順作成を事前課題
	各コマにおける授業予定	1. 糖尿病で食事療法が必要な患者への指導 2. 糖尿病患者のインスリン注射または血糖測定技術の指導		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 糖尿病をもつ患者(事例)の教育指導について考えることができる。	系統看護学講座 専門Ⅱ 内分泌・代謝 医学書院 資料	図書室などで糖尿病患者の食事指導に関する資料を学習し、指導のポイントを事前課題
	各コマにおける授業予定	糖尿病の事例患者への指導の目的・指導方法を計画および作成し、患者指導過程を体験		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標 糖尿病をもつ患者の教育指導について理解を深めることができる。	系統看護学講座 専門Ⅱ 内分泌・代謝 医学書院 資料	・生体機能学Ⅱ 疾病論Ⅱ、に関連した内容 ・パンフレットなどの修正箇所を提出
	各コマにおける授業予定	作成したパンフレットなどを用いて学生間で指導体験・発表を行い、患者への教育指導について振り返り		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専 門 分 野	授業の方法	講義演習
科 目 名	成人看護学援助論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室A・B
担 当 教 員	曾 紅	実務経験と その関連資格	看護師、集中ケア認定看護師。CCU、SCUで勤務。			
《授業科目における学習内容》						
健康危機状況の概念を捉え、急性期にある成人の特徴、周手術期、救命救急における成人がセルフケア困難に陥っている時の看護、クリティカルケア看護について学習する。周手術期の経過や術後の生体反応をふまえた回復への看護、消化器疾患・循環器疾患をもつ人の看護について理解を深める。						
《成績評価の方法と基準》						
小テスト、レポート並びに演習参加態度、筆記試験で総合的に評価。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院			系統看護学講座 専門Ⅱ 消化器 医学書院			
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院			系統看護学講座 専門Ⅱ 循環器 医学書院			
系統看護学講座 成人看護学総論 医学書院						
ナーシンググラフィカ23 健康危機状況 メディカ出版						
《授業外における学習方法》						
教科書を読み込み、復習をして、主体的に学習に取り組む。						
《履修に当たっての留意点》						
健康危機状況の視点をもつために自分自身の周囲の人々の健康や出来事・記事に関心を持つ。1年次の学習内容を復習し、急性期の看護、救急看護に理解を深めていく。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康危機状況にある成人を理解し、述べることができる。	テキスト 系統看護学講座 成人看護学総論 医学書院 資料	成人看護学概論の急性期に関する学習の復習	
		各コマにおける授業予定	1. 健康危機状況とは 2. 「成人」としての健康危機とは 3. 成人期の急性期の特徴と看護			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	手術侵襲と生体反応について述べることができる。	テキスト 系統看護学講座 別巻 臨床外科 看護総論 医学 書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
		各コマにおける授業予定	1. 外科的治療、手術侵襲とは、侵襲に対する生体反応 2. 炎症、感染症 3. 創傷治癒			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	周手術期看護の特徴について述べることができる。	テキスト 系統看護学講座 別巻 臨床外科 看護総論 医学 書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
		各コマにおける授業予定	1. 麻酔法と看護 2. 手術を受ける患者の状況、インフォームドコンセント 3. 周手術期の安全管理			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	手術前患者の看護について述べることができる。	テキスト 系統看護学講座 別巻 臨床外科 看護総論 医学 書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
		各コマにおける授業予定	1. 心の整理と意思決定支援 2. 手術に向けた患者教育・指導、クリニカルパス 3. 外来と病棟の連携			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	手術前患者の看護について述べるができる。	テキスト 系統看護学講座 別巻 臨床外科 看護総論 医学 書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
		各コマにおける授業予定	手術前の具体的援助－手術前オリエンテーション、心理面の援助、全身状態を整える援助など 手術前日・手術当日の看護援助			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	手術室の環境と看護について述べるができる。	テキスト 系統看護学講座 別巻 臨床外科 看護総論 医学 書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	手術室における看護の展開		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	手術直後・術後患者の看護について述べるができる。	テキスト 系統看護学講座 別巻 臨床外科 看護総論 医学 書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	回復を促進するための看護 起こりやすい術後合併症の予防と発症時の対応		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	手術後患者の看護について述べるができる。	テキスト 系統看護学講座 別巻 臨床外科 看護総論 医学 書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	自己管理に向けた看護 在宅療養に向けての看護		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	集中治療を受ける患者の看護と救急看護について述べるができる。	テキスト 系統看護学講座 別巻 臨床外科 看護総論 医学 書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	クリティカルケアとは 集中治療室とは 集中治療における看護		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	胃・十二指腸疾患患者の看護について述べるができる。	消化器 別巻 臨床外科 看護各論 医学 書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	1. 胃・十二指腸潰瘍患者の特徴 2. 症状に対する看護 3. 上部消化管内視鏡・造影検査 主な検査に対する看護		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	胃・十二指腸疾患患者の看護について述べるができる。	消化器 別巻 臨床外科 看護各論 医学 書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	病態生理からアセスメントの視点 食事療法などの看護 胃切除術を受ける患者の看護		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	大腸がん患者の看護について述べるができる。	消化器 別巻 臨床外科 看護各論 医学 書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	1. 大腸がん患者の特徴 2. 症状に対する看護 3. 下部消化管内視鏡 主な検査に対する看護		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	大腸がん患者の看護について述べるができる。	消化器 別巻 臨床外科 看護各論 医学 書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	病態生理からアセスメントの視点 大腸がん、ストーマ造設術を受ける患者の看護		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	虚血性心疾患患者の看護について述べるができる。	循環器 別巻 臨床外科 看護各論 医学 書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	1. 急性心筋梗塞患者の特徴 2. 胸痛・不整脈・動悸 主な症状に対する看護 3. 心電図、心臓カテテル検査 主な検査に対する看護		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	虚血性心疾患患者の看護について述べるができる。	循環器 別巻 臨床外科 看護各論 医学 書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	急性心筋梗塞患者の看護 ペースメーカー植え込み術を受ける患者の看護		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	成人看護学援助論Ⅲ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生	学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室A・B
担 当 教 員	竹内 美和	実務経験と その関連資格	看護師。神経内科病棟、放射線治療施設で勤務。□		
《授業科目における学習内容》					
がんや難病をもつ人の看護、人生最後を支える看護、健康障害の受容過程における援助や個々の死生観について理解し、思いを受け止め 寄り添うことの大切さを学ぶ。苦痛を全人的苦痛として捉え、緩和する知識・技術・態度について学びを深め、さらに自己の死生観を深める 機会とする。。					
《成績評価の方法と基準》					
小テスト、レポート並びに演習参加態度、筆記試験で総合的に評価。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 血液・造血器 医学書院 ターミナルケア がん看護 参考図書は授業中に随時紹介する					
《授業外における学習方法》					
教科書を読み込み、復習をして、主体的に学習に取り組む。					
《履修に当たっての留意点》					
1年次の学習内容を復習し、終末期の看護、ホスピス、ターミナルケア、緩和ケア、がん看護に関心をもち、理解を深めていく。					
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	授業を通じての到達目標	終末期看護、エンド・オブ・ライフケアの概念について述べるができる。		テキスト 系統看護学講座 成人看護学総論 医学書院 資料	成人看護学概論の終末期に関する学習の復習
	各コマにおける授業予定	終末期医療の現状、終末期看護の概念と特徴 終末期における倫理的課題、インフォームドコンセント・死の受容など エンド・オブ・ライフケアにおける看護 1) 苦痛緩和と意思決定支援 2) ACP 3) 家族ケア			
第2回	授業を通じての到達目標	終末期にある患者と家族の看護について述べるができる。		教科書 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	ターミナルケア、症状コントロール、リラクゼーション、看取り、家族の危機、残された家族の家族機能の再構築への支援ー グリーフケア、家族機能・家族システムの変化、ソーシャルサポート			
第3回	授業を通じての到達目標	がんをもつ人の生活や看護について述べるができる。		教科書 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	がんに関する動向 がん患者の苦痛と生活上の困難と看護 がん患者の家族への支援			
第4回	授業を通じての到達目標	侵襲的治療ー化学療法を受ける患者の看護について述べるができる。		教科書 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	化学療法を受ける患者の看護			
第5回	授業を通じての到達目標	侵襲的治療ー放射線療法を受ける患者の看護について述べるができる。		教科書 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	放射線療法を受ける患者の看護			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	ターミナル・緩和ケアの概念と日本における動向について述べる事ができる	教科書 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	緩和ケアの歴史と現状 緩和ケアを要する人とその家族の理解		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	緩和ケアを要する人とその家族への看護を述べる事ができる。	教科書 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	身体的ケア 精神的ケア 社会的ケア スピリチュアルケア		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	血液・造血器疾患患者の看護について述べる事ができる。	系統看護学講座 専門Ⅱ 血液・造血器 医学書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	1. 血液・造血器疾患患者の特徴 2. 貧血・出血傾向 主な症状に対する看護 3. 血液検査 主な検査に対する看護		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	血液・造血器疾患をもつ人の看護について述べる事ができる。	系統看護学講座 専門Ⅱ 血液・造血器 医学書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	悪性リンパ腫患者の看護 造血幹細胞移植を受ける患者の看護		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	終末期にある成人期の患者の事例展開ができる。	教科書 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	事例の情報整理、アセスメント		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	終末期にある成人期の患者の事例展開ができる。	教科書 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	アセスメント、全体像・関連図		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	終末期にある成人期の患者の事例展開ができる。	教科書 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	全体像、看護問題の整理		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	終末期にある成人期の患者の事例展開ができる。	教科書 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	看護計画立案		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	終末期にある成人期の患者の事例展開ができる。	教科書 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	事例の看護過程 討議 まとめ		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	これまでの授業を振り返り自身の死生観や終末期看護に関する考えを述べる事ができる。	授業資料の復習	死生観に関するレポートをまとめる
		各コマにおける授業予定	終末期看護の在り方 死生観		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	成人看護学援助論Ⅳ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生	学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室A・B
担 当 教 員	曾 紅	実務経験と その関連資格	看護師、集中ケア認定看護師。CCU、SCUで勤務。		
《授業科目における学習内容》					
外傷や疾病によりセルフケア能力が低下した状態に陥り、障害をもつ成人がセルフケアを再獲得し、障害を受け入れその人らしく生きていくための看護について考える。回復期にある患者と家族の特徴、回復期にある人のセルフケア、リハビリテーションを支える看護を学ぶ。神経疾患(脳血管障害の回復期)、脊髄損傷、アレルギー・膠原病・感染症患者の看護について学習する。					
《成績評価の方法と基準》					
小テスト、レポート並びに演習参加態度、筆記試験で総合的に評価。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 脳・神経 アレルギー・膠原病 感染症 医学書院					
《授業外における学習方法》					
教科書を読み込み、復習をして、主体的に学習に取り組む。					
《履修に当たっての留意点》					
障害について考えを深めることができるよう、障害がある人に関連する記事、映画、小説などに関心を持つ。					
授業の 方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	リハビリテーションの定義とそれを必要とする人について述べることができる。	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 資料	成人看護学概論の回復期に関する復習	
	各コマにおける授業予定	1. リハビリテーションの定義 2. ICDIHとICFの違い 3. 障害をもつとは			
第2回	授業を通じての到達目標	機能障害のアセスメントおよび障害受容と適応への看護を述べる ことができる	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
	各コマにおける授業予定	1. 機能障害のアセスメント 2. 障害受容と適応への看護			
第3回	授業を通じての到達目標	リハビリテーションに関するチームアプローチ、患者の社会参加への支援について考えることができる。	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
	各コマにおける授業予定	1. チームアプローチと社会資源の活用 2. 患者の社会参加への支援			
第4回	授業を通じての到達目標	脳血管障害患者を理解しセルフケア再獲得に向けての看護について述べる ことができる。	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 脳・神経 医学書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
	各コマにおける授業予定	1. 脳血管障害患者の特徴 2. 症状に対する看護 3. 主な検査に対する看護			
第5回	授業を通じての到達目標	回復期にある脳血管障害患者を理解し、セルフケア再獲得に向けての看護について述べる ことができる。	系統看護学講座 専門Ⅱ 脳・神経 医学書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
	各コマにおける授業予定	脳梗塞・脳出血患者のセルフケアを阻害する要因とその看護			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	回復期にある脳血管障害患者を理解し、セルフケア再獲得に向けての看護について述べるができる。	系統看護学講座 専門Ⅱ 脳・神経 医学書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	障害の受容 リハビリテーション看護		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	脊髄損傷患者を理解し、セルフケア再獲得に向けての看護について述べるができる。	系統看護学講座 専門Ⅱ 脳・神経 医学書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	脊髄損傷の病態生理、検査、治療		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	脊髄損傷患者を理解し、障害の受容について考えることができる。	系統看護学講座 専門Ⅱ 脳・神経 医学書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	障害の受容 事例		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	脊髄損傷患者を理解し、セルフケア再獲得に向けての看護について述べるができる。	系統看護学講座 専門Ⅱ 脳・神経 医学書院 資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	脊髄損傷患者のセルフケアを阻害する要因とその看護 脳神経リハビリテーション		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	アレルギー疾患について述べるができる。	系統看護学講座 専門Ⅱ アレルギー-膠原病 感染症 医学書院 資料	生体機能学Ⅰ 疾病論Ⅰに関する内容
		各コマにおける授業予定	アレルギー疾患の病態生理、主な検査・治療と看護		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	アレルギー疾患患者の看護について述べるができる。	系統看護学講座 専門Ⅱ アレルギー-膠原病 感染症 医学書院 資料	生体機能学Ⅰ 疾病論Ⅰに関する内容
		各コマにおける授業予定	主な症状に対する看護 アレルギー疾患患者の看護		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	膠原病について述べるができる。	系統看護学講座 専門Ⅱ アレルギー-膠原病 感染症 医学書院 資料	生体機能学Ⅰ 疾病論Ⅰに関する内容
		各コマにおける授業予定	膠原病疾患の病態生理、主な検査・治療と看護		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	膠原病患者の看護について述べるができる。	系統看護学講座 専門Ⅱ アレルギー-膠原病 感染症 医学書院 資料	生体機能学Ⅰ 疾病論Ⅰに関する内容
		各コマにおける授業予定	症状に対する看護 膠原病患者の看護		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	HIV/AIDS患者について述べるができる。	系統看護学講座 専門Ⅱ アレルギー-膠原病 感染症 医学書院 資料	生体機能学Ⅰ 疾病論Ⅰに関する内容
		各コマにおける授業予定	HIVとは AIDSとは 主な検査、治療(薬物療法導入)の看護		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	HIV/AIDS患者のセルフマネジメントを支援する看護を述べるができる。	系統看護学講座 専門Ⅱ アレルギー-膠原病 感染症 医学書院 資料	生体機能学Ⅰ 疾病論Ⅰに関する内容
		各コマにおける授業予定	HIV/AIDS患者の看護		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専 門 分 野	授業の方法	講義演習
科 目 名	成人看護学援助論Ⅴ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室A・B/実習室
担 当 教 員	赤木 恭美	実務経験と その関連資格	看護師。脳神経外科病院SCU・ICUにて勤務。			
《授業科目における学習内容》						
成人期にある事例を活用して、看護過程展開による問題解決思考で実践可能な看護計画立案について学ぶ。 さらに、看護実習室での周手術期の術後ベッド作成・弾性ストッキングの着脱方法などの演習を行う。 事例やシミュレーションを通して、成人看護に必要な援助技術を学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
記録用紙並びに演習参加態度、筆記試験で総合的に評価。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門Ⅱ 消化器 医学書院 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 ヌーベルヒロカワ 看護診断ハンドブック 第11版 医学書院 系統看護学講座 別館 臨床外科総論・各論 医学書院						
《授業外における学習方法》						
演習、グループ学習がスムーズにいくように関連する事前学習を十分に行う。また、事例に関して必要な資料を探しておく。						
《履修に当たっての留意点》						
成人期にある患者のニーズ、健康上の問題を理解し、問題解決に向けて看護が実践できるよう基礎的な知識と技術、態度を主体的に学ぶ。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	成人看護の看護過程展開の考え方、記述についてわかる。	成人・老年実習記録 看護過程の授業資料		学習した看護過程の展開について振り返っておく
		各コマにおける授業予定	1. 成人看護学援助論Ⅴオリエンテーション 2. 看護過程の振り返りおよび本校の実習記録での思考過程について (記録の説明)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	慢性期:糖尿病患者のアセスメントに必要な情報を整理し記述できる。	成人・老年実習記録 看護過程の授業資料		事例を読み、必要な資料を準備する
		各コマにおける授業予定	1. 看護過程個人ワークの進め方 事例紹介(糖尿病) 2. 情報の分類、整理～アセスメント			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	整理した情報を問題抽出に向けてアセスメントし思考過程を記述できる。	事例展開のために必要な資料		事例展開について十分に考えておく
		各コマにおける授業予定	1. 糖尿病患者のアセスメント			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	整理した情報・アセスメントを統合し全体像と看護問題を記述できる。	事例展開のために必要な資料		事例展開について十分に考えておく
		各コマにおける授業予定	1. 関連図と看護問題の明確化			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	全身麻酔・周手術期:消化器疾患患者のアセスメントに必要な情報を整理し記述できる。	事例展開(GW)のために必要な資料		事例展開について十分に考えておく
		各コマにおける授業予定	1. 看護過程グループワークの進め方 事例紹介 2. 情報の分類、整理～アセスメント			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	整理した情報を問題抽出に向けてアセスメントし思考過程を記述できる。	事例展開(GW)のために必要な資料	事例展開について十分に考えておく
		各コマにおける授業予定	1. 消化器疾患患者のアセスメント		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	整理した情報・アセスメントを統合し全体像と看護問題を記述できる。	事例展開(GW)のために必要な資料	事例展開について十分に考えておく
		各コマにおける授業予定	1. 関連図と看護問題の明確化		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	整理した情報・アセスメントを統合し全体像と看護問題を記述できる。	事例展開(GW)のために必要な資料	事例について十分学習しておく
		各コマにおける授業予定	1. 関連図と看護問題の明確化		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	看護問題を解決すべき具体的な看護計画の立案ができる。	事例展開(GW)のために必要な資料	事例について十分学習しておく
		各コマにおける授業予定	1. 看護計画の立案		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	看護問題とそれを解決するための計画について、他者の考えを聴くことで追加・修正ができる。	事例展開(GW)のために必要な資料	事例について十分学習しておく
		各コマにおける授業予定	周手術期の事例の看護過程 まとめ		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	手術当日の看護を体験する。	演習課題を達成するための資料(自分で選んでおく)	事例について十分学習しておく
		各コマにおける授業予定	術後ベッドの作成、物品の準備、弾性ストッキング着用、心電図モニター装着		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	術直後の観察、各種ドレーンの管理ができる。	演習課題を達成するための資料(自分で選んでおく)	事例について十分学習しておく
		各コマにおける授業予定	1. 術直後の観察 2. ドレーン管理		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	術後1日目の第1歩行(早期離床)に向けた援助について説明できる。	演習課題を達成するための資料(自分で選んでおく)	事例について十分学習しておく
		各コマにおける授業予定	1. 看護過程展開事例の術後1日目の援助(手順作成)		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	術後の第1歩行の援助を安全・安楽に実施できる	演習課題を達成するための資料(自分で選んでおく)	事例について十分学習しておく
		各コマにおける授業予定	1. シミュレーション演習 援助計画に沿って、第1歩行の援助を実施		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	1. 実施した援助の評価を記述できる。	演習課題を達成するための資料(自分で選んでおく)	事例について十分学習しておく
		各コマにおける授業予定	1. 実施した援助をリフレクション		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	精神看護学概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	池田 秀幸	実務経験と その関連資格	看護師。精神科病院で勤務。			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>精神医療と看護の歴史の変遷、精神障害者の処遇、現代の社会病理を概観し、心の健康を理解するために心の構造と機能、成長と発達、その課題と危機、心の健康に及ぼす諸因子、精神看護に関する諸モデルについて学習する。また、心の看護と特性、治療的関わりと働きかけなど心を病んだ人々の理解と援助を探求する精神看護学の基礎的理解と概念について学習する。</p>						
<p>演習参加状況、レポート課題提出状況、小テスト、並びに筆記試験で総合的に評価する</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①、精神看護の展開 精神看護学② 医学書院 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院 精神看護学Ⅰ 精神看護学、精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 ヌーベルヒロカワ ナーシンググラフィカ32 情緒発達と看護の基本 精神看護学 メディカ出版</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>テキストのみならず、他の専門誌や日刊紙等から情報を得て、興味本位で書かれた書誌に惑わされず、精神障害者の置かれている社会的状況と一般人間の理解に努めること。</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>授業中の私語、携帯電話・スマホの操作、他領域の課題の持ち込みと作業は厳禁とする。また、教科書を事前学習し、精神疾患と症状、状態像とそれらの看護について理解できるよう準備しておくこと。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神看護学の基本的考え方について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	教科書を見直す	
		各コマにおける授業予定	こころのケアと現代社会、精神看護学とその課題、精神障害とはどういうものか、個性性と普遍性、精神看護学に携わること			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神の健康と障害について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料 DVD	精神疾患に関する記事について感想文を作成する	
		各コマにおける授業予定	精神の健康とは、精神障害の体験			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神の健康と障害について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	教科書を見直す、関係法規を調べる	
		各コマにおける授業予定	精神障害のとらえ方			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	人間のこころのはたらきについて説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	心理学の著書を探し自己学習する	
		各コマにおける授業予定	人間のこころの諸活動、心のしくみと人格の発達、心の危機とストレス			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	関係の中の人間 全体としての家族を理解する	精神看護学の基礎テキスト、資料	家族看護学の著書で調べる	
		各コマにおける授業予定	1)家族の多様性、2)家族と健康、3)家族内のコミュニケーションのゆがみ、4)家族の中の役割関係、5)システムとしての家族6)家族関係図を描く7)家族療法の考え方			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	関係の中の間人 人間と集団について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	集団における個人についての著書を調べる
		各コマにおける授業予定	1) 集団の中の自己 2) グループプロセス 3) 全体としてのグループ 4) グループ実践 5) グループとしての病棟		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神科で出会う人々について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	精神科に関する記事の検索を行いそれについて調べる
		各コマにおける授業予定	1) 精神を病むことと生きること		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神科で出会う人々について説明することができる	精神看護学の基礎テキスト、資料	教科書で復習する
		各コマにおける授業予定	1) 精神症状論と状態像 ①症状とは何か ②さまざまな精神症状 3) 精神障害の診断と分類		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神科での治療について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	精神科で用いられる薬物について調べる
		各コマにおける授業予定	1) 精神科における治療 2) 薬物療法		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神科での治療について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	精神療法などの治療法について調べる
		各コマにおける授業予定	1) 精神療法 2) 環境療法 3) 社会療法		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会のなかの精神障害について説明することができる	精神看護学の基礎テキスト、資料	精神医学の歴史について調べる
		各コマにおける授業予定	1) 精神障害と治療の歴史 2) 日本における精神における精神医学・精神医療の流れ		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会のなかの精神障害について説明することができる	精神看護学の基礎テキスト、資料	精神疾患が社会でどのようにとらえられているか調べる
		各コマにおける授業予定	1) 精神障害と文化 2) 精神障害と社会学		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会のなかの精神障害を理解する	精神看護学の基礎テキスト、資料	精神看護に関する法律を調べる
		各コマにおける授業予定	精神障害と法制度		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	現代社会の諸問題と精神保健福祉について説明することができる	精神看護学の基礎テキスト、資料	精神看護に関する法律を調べる
		各コマにおける授業予定	統計からみた現代社会のメンタルヘルス問題		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	現代社会の諸問題と精神保健福祉について説明することができる	精神看護学の基礎テキスト、資料	報道記事から精神科に関する問題を把握する
		各コマにおける授業予定	1) 具体的にみた現代社会のメンタルヘルス問題 2) 精神保健専門家に期待されること		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	精神看護学援助論 I	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生	学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	池田 秀幸	実務経験と その関連資格	看護師。精神科病院で勤務。		
《授業科目における学習内容》					
患者理解の手段となる傾聴・共感のコミュニケーション技術の活用と、人間関係の確立とその関係性を発展させる方法について学ぶ					
演習参加状況、レポート課題提出状況、小テスト、並びに筆記試験で総合的に評価する					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①、精神看護の展開 精神看護学② 医学書院 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院 精神看護学Ⅰ 精神看護学、精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 ヌーベルヒロカワ ナーシンググラフィカ32 情緒発達と看護の基本 精神看護学 メディカ出版					
《授業外における学習方法》					
予習・復習を行いましょう					
《履修に当たっての留意点》					
集中して授業に臨みましょう					
授業の 方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標 精神障害の診断と看護について説明できる①	精神看護学の基礎テキスト、資料	統合失調症について調べる	
	各コマにおける授業予定	さまざまな疾患と障害 1) 統合失調症			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標 精神障害の診断と看護について説明できる②	精神看護学の基礎テキスト、資料 DVD	気分障害について調べる	
	各コマにおける授業予定	さまざまな疾患と障害 2) 気分(感情)障害			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標 精神障害の診断と看護について説明できる③	精神看護学の基礎テキスト、資料	神経障害について調べる	
	各コマにおける授業予定	さまざまな疾患と障害 3) 神経障害、その他			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標 ケアの人間関係①	精神看護学の基礎テキスト、資料	看護技術の教科書を見直す	
	各コマにおける授業予定	1) ケアの前提: 相手を知ること、自分を知ること			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標 ケアの人間関係②	精神看護学の基礎テキスト、資料	看護技術の教科書を見直す	
	各コマにおける授業予定	2) ケアの原則①人としての尊厳を尊重する②互いの境界を守る ③現実検討をする④応答性を保つ			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	ケアの方法について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	精神看護におけるユーモアについて調べる
		各コマにおける授業予定	1)そばにいること、「対象」となること 2)遊ぶこととユーモア		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	ケアの方法について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	看護技術の教科書を見直す
		各コマにおける授業予定	3)話をすること、聞くこと 3)気持ちに焦点をあてる 4)率直になること		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	関係をアセスメントしプロセスレコードを作成するか説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	プロセスレコードに使えるような事例を探す
		各コマにおける授業予定	なぜ関係をアセスメントするのか		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	プロセスレコードについて説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	プロセスレコードを書いてみる
		各コマにおける授業予定	プロセスレコードとは		
第10回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	関係をアセスメントしプロセスレコードで自己の傾向を説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	プロセスレコードを書いてみる
		各コマにおける授業予定	プロセスレコードとはどう書くのか		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	関係をアセスメントしプロセスレコードで自己の傾向を説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	作成したプロセスレコードで自己のコミュニケーションの傾向を知る
		各コマにおける授業予定	プロセスレコードを用いたアセスメントの実際		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	患者看護師間で起こることについて説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	患者と看護師間で発生した問題について検索する
		各コマにおける授業予定	1)共感する2)拒絶される3)攻撃の対象となる		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	患者看護師間で起こることについて説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	転移・逆転移について調べる
		各コマにおける授業予定	1)転移・逆転移		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	チームダイナミクスについて説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	チームダイナミクスについて調べる
		各コマにおける授業予定	1)病棟のダイナミクス		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	現代社会の諸問題と精神保健福祉を説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	スプリットングについて調べる
		各コマにおける授業予定	1)チームのスプリットング 2)カンファレンスでおこること		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	精神看護学援助論Ⅱ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生	学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担 当 教 員	池田 秀幸	実務経験と その関連資格	看護師。精神科病院で勤務。		
《授業科目における学習内容》					
精神医療における入院環境と治療的アプローチについて患者の自立・回復を促すための支援方法を学ぶ。					
演習参加状況、レポート課題提出状況、小テスト、並びに筆記試験で総合的に評価する					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①、精神看護の展開 精神看護学② 医学書院 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院 精神看護学Ⅰ 精神看護学、精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 ヌーベルヒロカワ ナーシンググラフィカ32 情緒発達と看護の基本 精神看護学 メディカ出版					
《授業外における学習方法》					
予習・復習をおこなうこと					
《履修に当たっての留意点》					
集中して授業に臨みましょう					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 精神科における看護の役割について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	精神科における入院について調べる	
	各コマにおける授業予定	1)入院治療の意味を理解する ①患者にとっての入院体験 ②入院の仕方 ③入院治療の目的 ④患者のアセスメント			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 治療的環境をつくる必要性を説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	精神科における環境について調べる	
	各コマにおける授業予定	1)治療と環境 2)治療的雰囲気 3)治療共同体 4)治療的環境と看護師			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標 安全を守る必要性について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	教科書を復習する	
	各コマにおける授業予定	1)安全な環境をつくる 2)リスクを最小限にする 3)自殺 ④)暴力			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標 回復を助けることの必要性について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	精神科リハビリについて調べる	
	各コマにおける授業予定	1)治療と回復 2)精神科におけるリハビリテーション 3)回復をささえるさまざまな方法4)回復のビジョン			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標 身体をケアする必要性について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	薬物、電気痙攣療法について調べる	
	各コマにおける授業予定	1)精神科における身体のケア2)身体に現れるところの痛み 3)精神科の治療と身体のケア ①向精神薬の有害反応 ②電気痙攣療法の看護			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	日常から気をつけておきたい身体合併症について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	教科書を復習する
		各コマにおける授業予定	1)患者の回復段階ごとの身体へのアプローチ、2)日常生活における身体ケア		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	日常から気をつけておきたい身体合併症について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	PTSDについて調べる
		各コマにおける授業予定	1)睡眠の援助 2)心的外傷を持つ患者への身体ケア		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	まとめ		
		各コマにおける授業予定	終講試験		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	精神看護学援助論Ⅲ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生	学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担 当 教 員	坂手 康人	実務経験と その関連資格	看護師。精神科病院で勤務。		
《授業科目における学習内容》					
<p>主要な精神疾患をもつ対象への看護を学ぶ 精神疾患が日常生活に及ぼす影響を理解し、セルフケア不足の観点から援助を導き出せる。 既習の知識・技術を活用し、対象に合わせた看護の方法を学ぶ 対象の願いを聞き、その願いを叶えるための目標と計画を立案する方法を学ぶ 学びを他者と共有することで、次回同じ場面に合ったときに、よりよく看護をするための方法を学ぶ</p>					
<p>演習参加状況、レポート課題提出状況、小テスト、並びに筆記試験で総合的に評価する</p>					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①、精神看護の展開 精神看護学② 医学書院 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院 精神看護学Ⅰ 精神看護学、精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 ヌーベルヒロカワ ナーシンググラフィカ32 情緒発達と看護の基本 精神看護学 メディカ出版</p>					
《授業外における学習方法》					
<p>予習・復習をし授業に参加すること。</p>					
《履修に当たっての留意点》					
<p>提出期限の厳守。積極的に参加すること。</p>					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	精神障害のある人の看護過程の展開ができる	精神看護学の基礎テキスト、資料	事例で提示された疾患を調べる	
	各コマにおける授業予定	①事例を用いて看護過程の展開			
第2回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	精神障害のある人の看護過程の展開ができる	精神看護学の基礎テキスト、資料DVD	情報を分ける	
	各コマにおける授業予定	事例(看護アセスメント、問題)			
第3回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	精神障害のある人の看護過程の展開ができる	精神看護学の基礎テキスト、資料	情報を整理する	
	各コマにおける授業予定	事例(問題の抽出)			
第4回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	精神障害のある人の看護過程の展開ができる	精神看護学の基礎テキスト、資料	関連図、看護問題を立案できる	
	各コマにおける授業予定	事例(実施・評価)			
第5回	講義形式 授業を通じての到達目標	地域における精神看護について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	地域における精神医療について調べる	
	各コマにおける授業予定	1)地域で生活するための原則 2)生活を支える制度			

授業の方法			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 地域で精神障害者を支援するための方法を説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定 1)医療(ACT、訪問看護など)2)生活支援3)交流4)働くこと		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 地域で精神障害者を支援するための方法を説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	地域における精神医療について調べる
		各コマにおける授業予定 1)地域での看護の実際(事例を通して) ①訪問看護 ②精神科リハビリシステムの実際		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 精神科以外での精神看護について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定 1)身体疾患と精神看護 2)看護カウンセリング		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 精神科以外での精神看護について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	リエゾン看護について調べる
		各コマにおける授業予定 1)リエゾン精神看護 2)コミュニティにおける精神保健・精神看護		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 災害における精神保健福祉援助について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	災害看護について調べる
		各コマにおける授業予定 1)被災者が直面する精神的諸問題 2)アメリカの精神保健援助チーム		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標 災害における精神保健福祉援助について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	ボランティアに教えている内容を調べてみる
		各コマにおける授業予定 1)ボランティアと専門家との連携 2)アフターケアのガイドライン		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルスについて説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	メンタルヘルスの現状について調べる
		各コマにおける授業予定 1)看護師のイメージ 2)看護師の不安と防衛 3)感情労働としての看護		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルスについて説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定 1)看護師の感情ワーク 2)看護における共感の光と影		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標 感情労働の代償について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定 感情労働の代償		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 感情労働を生き延びるための方法を説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定 課題についてグループ討議する		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	地域・在宅看護概論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	七瀬 光美	実務経験と その関連資格	看護師、介護支援専門員。医療型療養病棟、総合内科で勤務。□ □			
《授業科目における学習内容》						
在宅看護の目的、看護師の役割、対象者とその家族を理解し、対象となる人々のQOLに着目し、在宅看護の展開する上で必要な知識を学習する。また、在宅看護に関する法律と諸制度について理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
出席状況、小テスト、筆記試験により総合的に評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 地域在宅看護論1・Ⅱ 医学書院 ナーシンググラフィカ 地域を支えるケア 在宅看護論① メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 在宅療養を支える技術 在宅看護論② メディカ出版						
《授業外における学習方法》						
学生が在住している市町村の地域包括支援センターに介護保険・介護予防に関するパンフレット等資料をもらいに行き、市町村独自の介護予防事業内容を知る。1年次の地域在宅看護論の学びを踏まえ学習をすすめる。						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	在宅看護の目的と在宅看護の看護師の役割について説明ができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	在宅看護のめざすもの 在宅看護の社会背景 在宅看護における看護師の役割			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	在宅看護の対象者の年齢・疾患・障害・在宅療養状態別の特徴について説明ができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	在宅看護の対象者 対象者の特徴(年齢からみた特徴・疾患からみた特徴・障害の状態からみた特徴・在宅療養状態別からみた特徴) 住まい方と健康			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	在宅看護の対象者としての家族の定義と機能について説明ができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	在宅看護の対象者としての家族 家族の定義、家族の機能、家族システム理論を用いた家族のとらえ方 事例から考える家族システムの課題			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	在宅看護にかかわる法令・制度の種類を述べる事ができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	訪問看護にかかわる法令・制度とその活用 訪問看護制度の創設と発展経緯 在宅看護にかかわる法令・制度①(訪問看護)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険制度と医療保険制度での訪問看護の違いを説明することができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	訪問看護の提供方法と種類 訪問看護の利用者と訪問回数 介護保険制度と医療保険制度の使い分け・後期高齢者医療制度			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	障害者に関する法律、難病、子供の在宅医療制度について理解できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	在宅看護にかかわる法令・制度② (障害者に関する法律、難病、子供の在宅医療制度) GW		
第7回	講義形式 授業を通じての到達目標	訪問看護の利用までの手順について説明ができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	訪問看護の利用までの手順(介護保険の場合、医療保険の場合) 訪問看護サービスの提供、訪問看護ステーションの運営 ～医師と訪問看護ステーションとの関連		
第8回	講義演習形式 授業を通じての到達目標		ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	終講試験		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	地域・在宅看護援助論 I	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生	学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担 当 教 員	七瀬 光美・下村 明世 江田 純子	実務経験と その関連資格	看護師、介護支援専門員。医療型療養病棟、総合内科で勤務。□ 訪問看護師・訪問看護ステーション勤務		
《授業科目における学習内容》					
在宅療養者とその家族を対象に、在宅看護を展開するためのアセスメント方法、看護計画、在宅ケアの連携やケアマネジメント、社会資源を活用するための方法について学ぶ。					
《成績評価の方法と基準》					
出席状況、課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
系統看護学講座 地域在宅看護論1・II 医学書院 ナーシンググラフィカ 地域を支えるケア 在宅看護論① メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 在宅療養を支える技術 在宅看護論② メディカ出版					
《授業外における学習方法》					
《履修に当たっての留意点》					
講義で学んだアセスメント技術を生かして、事例を通してグループワークを行い在宅看護過程の展開方法を学ぶ。					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	訪問看護特徴と訪問看護師の役割を理解することができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと 介護保険法の基礎知識 小テストで確認する	
	各コマにおける授業予定	在宅療養を支える訪問看護 在宅看護とは 訪問看護の一日・訪問看護の特徴・訪問看護師の役割			
第2回	授業を通じての到達目標	訪問看護による家庭訪問時のマナーを学び、ロールプレイにて実践することができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと	
	各コマにおける授業予定	在宅看護の基本マナー 訪問看護による家庭訪問時のマナー 演習 ロールプレイ			
第3回	授業を通じての到達目標	訪問看護のサービス展開や実際について説明できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと	
	各コマにおける授業予定	在宅ケアを支える訪問看護 訪問看護の実際・訪問看護サービスの展開・訪問看護の記録			
第4回	授業を通じての到達目標	療養の場の移行に伴う看護や多職種、医療・介護施設との連携について理解することができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと	
	各コマにおける授業予定	療養の場の移行に伴う看護 医療機関における入退院時の連携・退院支援と退院調整と訪問看護医療施設と介護施設連携・多職種連携と地域連携、地域ケア会議			
第5回	授業を通じての到達目標	在宅看護の危機管理・安全保障を理解できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと	
	各コマにおける授業予定	在宅看護における危機管理・安全の確保			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 災害時における在宅療養者と家族の健康管理、感染防止について説明できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定 災害時における在宅療養者と家族の健康管理 感染防止		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 介護保険におけるケアマネジメント、ケアプランと訪問看護の関連を理解することができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定 介護保険におけるケアマネジメント ケアプランと訪問看護の関連(居宅介護支援サービス展開)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 ケアプランを作成し、訪問看護との関連の学びを深め説明することができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定 看護師がケアプランを把握することの重要性 在宅看護におけるケアマネジメント① 個人ワーク・GW ケアプラン作成		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 個人で作成したケアプランをGWで共有し、理解することができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定 在宅看護におけるケアマネジメント② GWの発表		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 訪問看護看護について事例検討をし、グループで考え共有することができる。	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定 事例GW 訪問看護師の求められる危険の予測と自立支援 AIS患者の療養について		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 提示する事例の情報を整理し、アセスメントすることができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定 在宅看護の看護過程① 事例(ALS)の提示・情報整理・ゴードン11項目によるアセスメント 個人ワーク		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標 ゴードンの11項目に沿って、必要な情報をアセスメントすることができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定 在宅看護の看護過程② ゴードン11項目によるアセスメント 個人ワーク		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標 事例のアセスメントしたことを踏まえ、関連図を作成し患者の全体像をとらえ説明することができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定 在宅看護の看護過程③ 関連図の作成・看護問題の抽出 個人ワーク		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標 抽出した看護問題のフォーカスアセスメントをして、優先順位を考え説明することができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定 在宅看護の看護過程④ フォーカスアセスメント(PES記入)・優先順位 個人ワーク		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 事例のアセスメントしたことを踏まえ、抽出した看護問題に対して、看護計画を立案できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定 在宅看護の看護過程⑤ 看護計画の立案 まとめ		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	地域・在宅看護援助論Ⅱ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生	学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担 当 教 員	岡本 洋美・下村明世・ 豊福まゆみ・篠井恵理子	実務経験と その関連資格	訪問看護師・訪問看護ステーション勤務。		
《授業科目における学習内容》					
在宅看護を展開するために、在宅で求められる実践的な生活・医療看護技術を学習する。					
《成績評価の方法と基準》					
出席状況、課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
系統看護学講座 地域在宅看護論Ⅰ・Ⅱ 医学書院 ナーシンググラフィカ地域を支えるケア 在宅看護論① メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 在宅療養を支える技術 在宅看護論② メディカ出版					
《授業外における学習方法》					
《履修に当たっての留意点》					
基礎看護学で学んだ臨床看護技術を生かして、在宅における在宅看護技術の実践方法と家族指導の方法を学ぶ。					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	在宅看護を展開するにうえで検討すべきポイントを述べることができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと	
	各コマにおける授業予定	在宅で看護を展開するにあたって 生活ケア・医療的ケア 在宅看護の活動を支えるコミュニケーション 在宅看護を展開するうえで検討すべきポイント			
第2回	授業を通じての到達目標	在宅看護における呼吸と食生活に関する看護技術が説明できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと	
	各コマにおける授業予定	在宅看護で求められる看護技術 呼吸に関する在宅看護技術 食生活・嚥下に関する在宅看護技術			
第3回	授業を通じての到達目標	在宅の排泄に関するアセスメントについて説明することができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと	
	各コマにおける授業予定	排泄に関する在宅看護技術、在宅での排泄の特徴 排泄に関するアセスメント、尿失禁の予防と工夫			
第4回	授業を通じての到達目標	在宅看護での移動・移乗について説明することができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと	
	各コマにおける授業予定	移動・移乗に関する在宅看護技術 在宅での移動・移乗の特徴、移動・移乗のアセスメント 在宅における移動・移乗の援助に関するポイント			
第5回	授業を通じての到達目標	在宅での清潔援助のポイントを説明することができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと	
	各コマにおける授業予定	清潔に関する在宅看護技術 在宅での清潔援助の特徴、清潔に関するアセスメント 在宅における清潔の援助に関するポイント			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 介護者の身体的負担を示す項目について説明することができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	認知機能のアセスメント法と援助技術 認知機能とは、認知機能のアセスメントと援助の適応条件 認知機能のアセスメントが必要な療養者への在宅看護		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 在宅看護におけるコミュニケーションの支援方法を説明できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	コミュニケーションの支援 在宅におけるエンドオブライフケア 在宅における終末期看護の特徴、在宅終末期看護の展開		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 服薬管理における訪問看護師の役割を説明することができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	在宅における誤薬の防止、服薬管理 服薬の継続のための援助方法 在宅における疼痛緩和、疼痛緩和を行う療養者への在宅看護		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 褥瘡予防のためのケアの視点を説明することができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	在宅における医療管理を要する人の看護 褥瘡の予防とケア 褥瘡発生時の対応、治療・ケア計画の実際		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 尿道留置カテーテルを使用中の療養者の家族指導の内容を説明することができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	尿道留置カテーテルとは、尿道留置カテーテルの適応条件 カテーテルの種類と適応、合併症とその対処方法 尿道留置カテーテルを適応している療養者への在宅看護		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 ストーマを造設した療養者の生活の工夫を説明できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	ストーマ(人工肛門・人工膀胱) ストーマとは、ストーマの適応 ストーマからの排泄方法、主な合併症とその適応、生活の工夫		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標 在宅経管栄養法の管理と栄養投与における留意点を説明できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	経管栄養とは、経管栄養の種類と適応、経鼻経管栄養法、胃瘻管理 在宅中心静脈栄養法 在宅中心静脈栄養法の適応条件、HPNの療養者への在宅看護		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 非侵襲的陽圧換気療法の機器と管理方法について説明できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	非侵襲的陽圧換気療法(NPPV) 非侵襲的陽圧換気療法とは、非侵襲的陽圧換気療法の適応条件 非侵襲的陽圧換気療法を用いる療養者への在宅看護		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 HOTを用いる在宅療養者への日常生活の管理について説明できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	在宅酸素療法(HOT) 在宅酸素療法とは、保険診療におけるHOTの適応基準 HOTを用いる在宅療養者への在宅看護		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標 在宅人工呼吸療法を行う療養者への必要となる援助内容について説明できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	在宅人工呼吸療法(HMV)と排痰法 在宅人工呼吸療法を用いる療養者への在宅看護 排痰に関する在宅看護技術		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	地域・在宅看護援助論Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担 当 教 員	岡本 洋美・下村明世・ 豊福まゆみ・篠井恵理子	実務経験と その関連資格	訪問看護師・訪問看護ステーション勤務。			
《授業科目における学習内容》						
在宅看護の目的、看護師の役割、それぞれの対象者とその家族を理解し、在宅看護を提供する過程で必要な知識を活用して、事例についてグループワークで検討し学習をする。						
《成績評価の方法と基準》						
出席状況、課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 地域在宅看護論1・Ⅱ 医学書院 ナーシンググラフィカ 地域を支えるケア 在宅看護論① メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 在宅療養を支える技術 在宅看護論② メディカ出版						
《授業外における学習方法》						
各事例に関する疾患についての事前学習を既習の専門基礎科目から学習する。事例に対して在宅看護について考え、看護計画を立案する。						
《履修に当たっての留意点》						
成人看護学・老年看護学・小児看護学・精神看護学で学んだを生かして、在宅における看護過程の展開方法を学ぶ。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	在宅看護への介入時期の6つの時期についてその特徴を説明することができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	在宅看護介入時期別の特徴 在宅療養準備期、在宅療養移行期、在宅療養安定期 急性増悪期、終末(看取り)期、在宅療養終了期			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	小児の療養者に対する在宅看護における家族指導のポイントを説明できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	小児の療養者に対する在宅看護 小児の療養者の事例 情報、退院計画、退院時カンファレンス 在宅療養の開始・看護目標・看護計画・実施と短期評価			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	精神疾患をもった療養者に対する在宅ケアの特徴を説明できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	精神疾患をもった療養者に対する在宅看護 事例 情報、アセスメント、看護目標・看護計画 訪問看護の特徴とケアの実際、短期目標と評価			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	脳卒中をおこした事例の在宅療養導入までの過程を説明できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	脳卒中をおこした療養者の在宅療養導入の事例展開 療養者についての情報、リハビリ病院への転院 リハビリ病院の退院計画、在宅療養の開始			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	パーキンソン病療養者のアセスメントし、看護計画を立案して説明できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	パーキンソン病療養者に対する在宅看護の事例展開 療養者の情報、アセスメントの視点 看護目標・看護計画 実施と短期評価、家族支援のあり方			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標 パーキンソン病療養者の在宅看護について理解することができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定 GW・発表 パーキンソン病療養者の在宅看護		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 認知症の療養者のアセスメントし、看護計画を立案して説明することができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定 認知症の療養者に対する在宅看護の事例展開 認知症の療養者の情報、アセスメントの視点 看護目標・看護計画 実施と短期評価、家族支援のあり方		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標 認知症の療養者の在宅看護における家族指導のポイントを説明することができる。	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定 GW・発表 認知症の療養者の在宅看護		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 独居の療養者のアセスメントし、看護計画を立案して説明することができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定 独居の療養者に対する在宅看護の事例展開 独居の療養者についての情報、アセスメント、看護計画の立案 多職種連携の方法とその実際(地域包括ケアシステム) 訪問看護の実施経過・評価、緊急時の対応策		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標 独居の療養者の訪問看護を実施する上で多職種の連携方法について説明できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定 GW・発表 独居の療養者の訪問看護		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 終末期(がん)の療養者への在宅看護導入に必要なアセスメントの視点を説明できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定 終末期(がん)の療養者に対する在宅看護の事例展開 終末期(がん)の療養者および家族の情報 終末期(がん)の療養者のアセスメント 看護目標・看護計画・訪問看護の導入と家族支援		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 終末期(がん)の療養者の緩和ケアのポイントを説明できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定 終末期(がん)の療養者の終末期にみられる症状のアセスメント 終末期の療養者の看護目標・看護計画、家族支援の方法 臨死期、死亡直後の看護ケアの実施・評価、グリーフケア GW・発表		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 COPDの療養者の在宅酸素療法の管理の特徴を説明することができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定 COPDの療養者についての情報、アセスメント COPDの療養者の看護目標・看護計画 訪問看護の実施経過と評価、HOTの管理の実際		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 在宅看護における倫理と権利保障について理解することができる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定 在宅看護における倫理 在宅看護における権利保障 GW		
第15回	講義実習形式	授業を通じての到達目標 在宅看護を学び考えたことが説明できる	ipad テキスト 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定 まとめ 在宅看護を学び考えること 復習 個人ワーク 発表		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	母性看護学概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	2年生		学期及び曜時間	前期	教室名	2年教室
担当教員	水谷 圭	実務経験と その関連資格	分娩施設(周産期センター・母子健康センター)13年、地域(保健所・保健センター・訪問事業)7年			
《授業科目における学習内容》						
女性特有の身体的特性および心理・社会的特性を理解し、すべてのライフステージにおける女性の健康を理解する。リプロダクティブヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)について理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
出席状況、課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院						
《授業外における学習方法》						
予習復習をして、講義の内容をまとめる 演習項目を事前学習する						
《履修に当たっての留意点》						
日ごろより、リプロダクティブヘルスに関連した社会の動きやニュースに敏感になり社会の動向を踏まえる						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	母性看護の基盤となる概念がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単位について読んでおく	
		各コマにおける授業予定	1. 母性とは 2. 母子関係と家族発達 3. セクシュアリティ 4. リプロダクティブヘルス/ライツ			
第2回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	母性看護の基盤となる概念がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単位について読んでおく	
		各コマにおける授業予定	1. ヘルスプロモーション 2. 母性看護のありかた 3. 母性看護における倫理			
第3回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	母性看護の対象がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単位について読んでおく	
		各コマにおける授業予定	1. 母性看護の対象とは			
第4回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	母性看護の対象がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単位について読んでおく	
		各コマにおける授業予定	1. 母性看護の歴史の変遷と現状			
第5回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	母性看護の対象がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単位について読んでおく	
		各コマにおける授業予定	1. 母性看護の対象を取り巻く環境			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	母性看護の対象がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単位について読んでおく
		各コマにおける授業予定	1. 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	母性看護の対象がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単位について読んでおく
		各コマにおける授業予定	1. 女性のライフサイクルと家族 2. 母性の発達、成熟、継承		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	母性看護に必要な看護技術がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単位について読んでおく
		各コマにおける授業予定	1. 母性看護における看護過程 2. 情報収集、アセスメント技術 3. 母性看護に使われる看護技術		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	女性のライフステージ各期における看護がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単位について読んでおく
		各コマにおける授業予定	1. ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性 2. 思春期の健康と看護 3. 成熟期の健康と看護		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	女性のライフステージ各期における看護がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単位について読んでおく
		各コマにおける授業予定	1. 更年期の健康と看護 2. 老年期の健康と看護		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	リプロダクティブヘルスケアを説明できる	教科書 授業資料	教科書の該当単位について読んでおく
		各コマにおける授業予定	1. 家族計画 2. 性感染症とその予防 3. 人工妊娠中絶と看護		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	リプロダクティブヘルスケアを説明できる	教科書 授業資料 演習問題	演習項目を事前学習しておく
		各コマにおける授業予定	1. 喫煙女性の健康と看護 2. 性暴力を受けた女性に対する看護 3. 児童虐待と看護 4. 国際社会と看護		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	母性看護に必要な健康教育を考える	教科書 授業資料 演習問題	演習項目を事前学習しておく
		各コマにおける授業予定	1. テーマ決め 2. グループワーク		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	母性看護に必要な健康教育を考える	教科書 授業資料 演習問題	演習項目を事前学習しておく
		各コマにおける授業予定	1. グループワーク		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	母性看護に必要な健康教育を考える	教科書 授業資料 演習問題	演習項目を事前学習しておく
		各コマにおける授業予定	1. 発表		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	母性看護学援助論 I	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担当教員	水谷 圭・森本 彩子	実務経験とその関連資格	分娩施設(周産期センター・母子健康センター)13年、 地域(保健所・保健センター・訪問事業)7年		
《授業科目における学習内容》					
女性のライフステージにおける妊娠・分娩・産褥というダイナミックな変化をとげる周産期の、生理的・心理的・社会的な経過と変化およびその特性に適した看護を学習する。					
《成績評価の方法と基準》					
出席状況、演習レポート提出状況、筆記試験で総合的に評価する					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院 根拠と事故防止からみた母性看護技術 医学書院					
《授業外における学習方法》					
予習・復習をして講義内容をまとめる 演習項目を事前学習する					
《履修に当たっての留意点》					
日ごろより、リプロダクティブヘルスに関連した社会の動きやニュースに敏感になり社会の動向を踏まえる					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標 妊娠期の身体的特性とそのメカニズムについてわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単元について読んでおく	
	各コマにおける授業予定	1. 妊娠のはじまり 2. 妊娠の生理的な身体的特性			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標 妊娠期の生理的な経過がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単元について読んでおく	
	各コマにおける授業予定	1. 正常な妊娠の生理的な経過			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標 妊娠期の心理・社会的特性について説明できる	教科書 授業資料	教科書の該当単元について読んでおく	
	各コマにおける授業予定	1. 妊娠期の心理 2. 妊娠期の社会的特性			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標 正常な妊娠期の看護がわかる	教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当単元について読んでおく	
	各コマにおける授業予定	1. 正常な妊娠期(初期)における看護			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標 正常な妊娠期の看護がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単元について読んでおく	
	各コマにおける授業予定	1. 正常な妊娠期(中期)における看護			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	正常な妊娠期の看護がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	1. 正常な妊娠期(末期)における看護		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	分娩の要素を理解し、分娩の経過を説明できる	教科書 授業資料	教科書の該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	1. 分娩の要素 2. 分娩の経過		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	分娩の機序を説明できる	教科書 授業資料	教科書の該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	1. 分娩機序 2. 起こりやすい異常		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	分娩期の心理・社会的特性について説明できる	教科書 授業資料	教科書の該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	1. 分娩期の心理 2. 分娩期の社会的特性		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	分娩各期に応じた看護が説明できる	教科書 授業資料 演習課題	教科書の該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	1. 分娩各期に応じた看護		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	分娩各期に応じた看護が説明できる	教科書 授業資料	教科書の該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	1. 分娩各期に応じた看護		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	分娩期の看護計画を説明できる	教科書 授業資料	事例を用いながら分娩期の看護展開をしていく
		各コマにおける授業予定	分娩期の看護計画を立案する		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	分娩期の看護計画を説明できる	教科書 授業資料	事例を用いながら分娩期の看護展開をしていく
		各コマにおける授業予定	分娩期の看護計画を立案する		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	妊娠期および分娩期の看護の実際を演習を通してわかる	教科書 授業資料	演習項目について事前学習をしておく
		各コマにおける授業予定	1. レオポルド触診法についてわかる 2. 胎児心音の位置がわかる 3. 分娩期の看護の実際を体験する		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	妊娠期および分娩期の看護の実際を演習を通してわかる	教科書 授業資料	演習項目について事前学習をしておく
		各コマにおける授業予定	1. レオポルド触診法についてわかる 2. 胎児心音の位置がわかる 3. 分娩期の看護の実際を体験する		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	母性看護学援助論Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時間	後期	教室名	2年教室
担 当 教 員	水谷 圭	実務経験と その関連資格	分娩施設(周産期センター・母子健康センター13年)、地域(保健所・保健センター7年、訪問事業9)			
《授業科目における学習内容》						
産褥・新生児の生理的な経過・変化と、その特性に適した看護援助を学習し、看護展開を行う						
《成績評価の方法と基準》						
出席状況、課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院 根拠と事故防止からみた母性看護技術 医学書院						
《授業外における学習方法》						
予習・復習をして講義内容をまとめる 事例を用いて看護展開を実際に行い、看護計画(スタンダードプラン)を作成する 演習項目を事前学習する						
《履修に当たっての留意点》						
日ごろより、リプロダクトヘルスに関連した社会の動きやニュースに敏感になり社会の動向を踏まえる						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	妊娠期及び分娩期の看護について復習ができる	教科書 授業資料	教科書の該当単位について読んでおく	
		各コマにおける授業予定	1. 妊娠の経過 2. 分娩の要素、機序、経過 3. 起こりやすい異常			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	産褥期の生理的な経過がわかる	教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当単位について読んでおく	
		各コマにおける授業予定	1. 退行性変化			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	産褥期の生理的な経過がわかる	教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当単位について読んでおく	
		各コマにおける授業予定	1. 進行性変化			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	産褥期の心理・社会的特性について説明できる	教科書 授業資料	教科書の該当単位について読んでおく	
		各コマにおける授業予定	1. 産褥期の心理 2. 産褥期の社会的特性			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康な新生児の生理的特徴がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単位について読んでおく	
		各コマにおける授業予定	新生児の生理的特徴			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康な新生児の生理的特徴がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単位について読んでおく
		各コマにおける授業予定	新生児の生理的特徴		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	産褥期の看護について看護展開の方法がわかる	教科書 授業資料	事例を用いながら産褥期の看護展開をしていく
		各コマにおける授業予定	1. ウェルネス思考について 2. 情報の整理 3. アセスメント 4. 関連図		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	産褥期の看護について看護展開の方法がわかる	教科書 授業資料 演習問題	事例を用いながら産褥期の看護展開をしていく
		各コマにおける授業予定	1. 情報の整理 2. アセスメント 3. 関連図		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	産褥期の看護計画を説明できる	教科書 授業資料 演習問題	事例を用いながら産褥期の看護展開をしていく
		各コマにおける授業予定	産褥期の看護計画(スタンダードプラン)を立案する		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	産褥期の看護計画を説明できる	教科書 授業資料 演習問題	事例を用いながら産褥期の看護展開をしていく
		各コマにおける授業予定	産褥期の看護計画(スタンダードプラン)を立案する		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	新生児期の看護について看護展開の方法がわかる	教科書 授業資料 演習問題	事例を用いながら新生児期の看護展開をしていく
		各コマにおける授業予定	1. 情報の整理 2. アセスメント 3. 関連図		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	新生児期の看護計画を説明できる	教科書 授業資料 演習問題	事例を用いながら新生児期の看護展開をしていく
		各コマにおける授業予定	新生児期の看護計画(スタンダードプラン)を立案する		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	産褥期の看護の実際を演習を通して学ぶ	教科書 授業資料 演習問題	演習項目について事前学習をしておく
		各コマにおける授業予定	1. 退行性変化における子宮底の観察 2. 進行性変化における乳房の観察および授乳の観察 3. 新生児の抱き方およびボトル授乳の方法		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	新生児期の看護の実際を演習を通して学ぶ	教科書 授業資料 演習問題	演習項目について事前学習をしておく
		各コマにおける授業予定	1. 新生児の全身の観察およびバイタルサイン測定 2. 沐浴実施 3. 衣服・オムツ交換		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	周産期の健康問題への看護がわかる	教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当単位について読んでおく
		各コマにおける授業予定	1. 妊娠期の異常の看護 2. 分娩期の異常の看護 3. 産褥期の異常の看護		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義実習
科 目 名	老年看護学援助論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員	山田 英美	実務経験と その関連資格	看護師。内科、外科、整形外科、小児科病棟と病院勤務。			
《授業科目における学習内容》						
高齢者の生活の質の向上に向け、個人の可能性を最大限に発揮できるような看護援助のあり方と実際を学ぶ。 加齢や障害により高齢者の生活行動がどのように変化して、高齢者自身への影響について考える。						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験ならびにレポート課題により評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 ナーシンググラフィカ 老年看護学 老年看護の実際 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 老年看護学 高齢者の健康と障害 メディカ出版						
《授業外における学習方法》						
講義の復溜と予習 課題提示したレポート作成						
《履修に当たっての留意点》						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を 通じての 到達目標	老年看護学概論で学んだ知識をもとに高齢者に必要な看護について述べることができる。		テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
	各コマに おける 授業予定	老年看護の定義 老年看護の役割 老年看護の特徴 グループワーク				
第2回	授業を 通じての 到達目標	高齢者の擬似体験を通して、高齢者に必要な介助方法を考え、実践できる。		テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
	各コマに おける 授業予定	高齢者擬似体験導入 高齢者の擬似体験ならびに介助				
第3回	授業を 通じての 到達目標	高齢者の擬似体験を通して、高齢者に必要な介助方法を考え、実践できる。		テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
	各コマに おける 授業予定	高齢者擬似体験導入 高齢者の擬似体験ならびに介助				
第4回	授業を 通じての 到達目標	認知症の基礎知識を述べることができる。		テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
	各コマに おける 授業予定	認知症の看護① 認知症とは 認知症の症状 認知症と社会制度				
第5回	授業を 通じての 到達目標	認知症を持つ家族の課題や問題について説明できる。		テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
	各コマに おける 授業予定	認知症の看護② 認知症高齢者をもつ家族について考える DVD				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症高齢者へのかかわり方を述べられる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	認知症の看護③ 認知症を持つ家族への支援・DVD ユマニチュード、パーソンセンタード		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域での認知症のかかわり方、施策について説明できる。	テキスト 講義資料	課題レポートの作成
		各コマにおける授業予定	認知症の看護④ 新オレンジプラン ～キャラバン隊による講義～		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	老年症候について説明できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	高齢者によくみられる症状と看護① 老年症候・全身状態		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の歩行移動や活動、廃用症候群との関連について述べることができる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	高齢者によくみられる症状と看護② 歩行・移動・廃用症候群		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の痒み・痛み・しびれなどの症状について説明できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	高齢者によくみられる症状と看護③ 痒み・痛み・しびれ・感染症		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の排泄障害にかかわる症状を説明できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	高齢者によくみられる症状と看護④ 排泄障害・脱水・睡眠		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	高齢者の身体機能について述べられる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	高齢者に身体機能マップ作成(特徴をまとめる)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者を介護する家族の課題や問題について述べられる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	高齢者を介護する家族の看護		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の終焉とかかわり方を説明できる。	テキスト 講義資料	課題レポートの作成
		各コマにおける授業予定	高齢者の終焉のあり方と看護① DVD		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	終焉を迎える高齢者のあり方について説明できる。	テキスト 講義資料	課題レポートの作成
		各コマにおける授業予定	高齢者の終焉のあり方と看護② DVD		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	老年看護学援助論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	
担 当 教 員	樺 健二	実務経験と その関連資格	看護師。病棟勤務・訪問看護を経験。			
《授業科目における学習内容》						
健康障害をもつ高齢者の看護をどのようにどのように提供するのか、その方法について具体的な事例を通して、看護実践のあり方を学ぶ						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験にて評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態 疾患論 ナーシンググラフィカ 老年看護学 老年看護の実際 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 老年看護学 高齢者の健康と障害 メディカ出版						
《授業外における学習方法》						
講義の復溜と予習 復習の確認のため、小テストの実施						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の生活機能を整える看護について説明することができる	テキスト 講義資料	講義の振り返り レポート課題	
		各コマにおける授業予定	日常生活を支える基本的活動 基本動作と環境のアセスメント			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の生活機能を整える看護について説明することができる	テキスト 講義資料	講義の振り返り レポート課題	
		各コマにおける授業予定	転倒のアセスメントと看護 廃用症候群のアセスメントと看護			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の食生活や食事に関するアセスメントについて学び、 食事や栄養に必要な看護を説明できる。	テキスト 講義資料	講義の振り返り レポート課題	
		各コマにおける授業予定	高齢者の生活機能を整える看護① 食生活のアセスメント・栄養スクリーニング			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の排泄に関するアセスメントをして、必要な看護を述べることができる。	テキスト 講義資料	講義の振り返り レポート課題	
		各コマにおける授業予定	高齢者の排泄のアセスメントと排泄ケアの基本について 排尿障害・排便障害について			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の生理的特徴および看護について述べられる。	テキスト 講義資料	講義の振り返り レポート課題	
		各コマにおける授業予定	排尿、排便障害の特徴、ケアについて 高齢者に生じやすい清潔に関する課題			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	検査、治療(薬物療法)を受ける高齢者の看護について説明することができる	テキスト 講義資料	講義の振り返り レポート課題
		各コマにおける授業予定	高齢者に行われる検査および看護について 薬物治療および有害事象について		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	手術治療を受ける高齢者の特徴、および看護について説明することができる	テキスト 講義資料	講義の振り返り レポート課題
		各コマにおける授業予定	術前オリエンテーション 高齢者に多い手術 術後せん妄 など		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	治療を必要とする高齢者の看護について説明することができる	テキスト 講義資料	講義の振り返り レポート課題
		各コマにおける授業予定	入院治療を受ける高齢者の看護 リハビリテーションを受ける高齢者の看護		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	老年看護学援助論Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	
担 当 教 員	山田 英美	実務経験と その関連資格	看護師。内科、外科、整形外科、小児科病棟と病院勤務。			
《授業科目における学習内容》						
老年看護概論と高齢者の健康と障害時の看護、高齢者の日常生活援助で学んだ知識と技術を統合し、高齢者の看護過程を展開する。						
《成績評価の方法と基準》						
提示した1事例の看護過程の内容で、看護計画を立案したもので評価 終講試験にて評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 生活機能からみた老年看護過程 医学書院 ナーシンググラフィカ 老年看護学 老年看護の実際 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 老年看護学 高齢者の健康と障害 メディカ出版						
《授業外における学習方法》						
提示した事例の情報の整理(分析含)・関連図・看護問題抽出・看護計画立案などテキストや参考文献を参照して、看護過程の展開の実施をした結果により評価。終講試験により評価						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	提示した事例の情報整理したことを説明できる。	テキスト 講義資料		提示した事例の情報整理
		各コマにおける授業予定	老年看護学の看護過程の説明 事例の提示・情報の整理			
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	提示した事例の情報整理し、文献を活用し分析したことを述べられる。	テキスト 講義資料		提示した事例の情報整理した内容の分析を文献を活用し行う。
		各コマにおける授業予定	提示した事例の情報整理(ゴードンの枠組みでの分類) 参考文献を活用した情報の分析			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	分析した内容から看護問題を抽出し、説明できる。	テキスト 講義資料		提示した事例の情報整理した内容の分析を文献を活用し行う、看護問題の抽出を行う。
		各コマにおける授業予定	参考文献を活用した情報の分析 看護問題の抽出			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	関連図を作成し、事例患者の全体像を把握し、説明できる。	テキスト 講義資料		提示した事例の全体像把握のための関連図作成
		各コマにおける授業予定	提示事例の患者の全体像を把握のために関連図作成			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	看護問題に優先順位をつけ、看護実践の説明が述べられる。	テキスト 講義資料		看護問題に優先順位をつけ、看護計画の立案をする。
		各コマにおける授業予定	全体像の把握し、看護問題の優先順位を考える。 優先順位の高い看護問題に対し、看護計画の立案をする。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	看護計画を立案する。	テキスト 講義資料	看護計画の立案(追加修正)
		各コマにおける授業予定	優先順位をつけ、優先度の高い看護問題に対し、看護計画を立案する。		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	看護計画を立案し、実施(演習)ができる。	テキスト 講義資料	看護過程の展開した内容の評価 演習の振り返りシートの記入
		各コマにおける授業予定	立案した看護計画を元に演習を行うい、評価する。 実施した内容に追加修正があれば行う。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の循環器疾患の看護について述べるができる。	テキスト 講義資料	講義した内容の振り返り(レポート課題)
		各コマにおける授業予定	身体疾患のある高齢者の看護 ① 循環器疾患の看護		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の呼吸器疾患の看護について述べるができる。	テキスト 講義資料	講義した内容の振り返り(レポート課題)
		各コマにおける授業予定	身体疾患のある高齢者の看護 ② 呼吸器疾患の看護		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の神経性難病疾患の看護について述べるができる。	テキスト 講義資料	講義した内容の振り返り(レポート課題)
		各コマにおける授業予定	身体疾患のある高齢者の看護 ③ 神経性難病(パーキンソン病)の看護		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の脳血管疾患の看護について述べるができる。	テキスト 講義資料	講義した内容の振り返り(レポート課題)
		各コマにおける授業予定	身体疾患のある高齢者の看護 ④ 脳血管疾患の看護		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の骨・骨格器疾患の看護について述べるができる。	テキスト 講義資料	講義した内容の振り返り(レポート課題)
		各コマにおける授業予定	身体疾患のある高齢者の看護⑤ 骨・骨格器疾患・泌尿器疾患の看護		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の皮膚・感覚器疾患の看護について述べるができる。	テキスト 講義資料	講義した内容の振り返り(レポート課題)
		各コマにおける授業予定	身体疾患のある高齢者の看護⑤ 皮膚疾患・感覚器疾患の看護		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の精神疾患・認知機能障害の看護について述べるができる。	テキスト 講義資料	講義した内容の振り返り(レポート課題)
		各コマにおける授業予定	高齢期の精神疾患・認知機能障害の実際 うつ・せん妄・高次機能障害のある高齢者の看護		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者のリスクマネジメント・高齢者と災害について説明できる。	テキスト 講義資料	講義した内容の振り返り(レポート課題)
		各コマにおける授業予定	高齢者のリスクマネジメント 高齢者特有のリスク要因と医療事故、高齢者と災害		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	医療安全		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員	竹内 千恵	実務経験と その関連資格	看護師。看護部長として勤務。			
《授業科目における学習内容》						
医療安全における看護の責務・役割及び事故分析の方法を理解する。看護・医療における「安全」を理解し、日常の看護・医療の場で発生しやすい事故について認識を深め、事故防止の考え方や知識を学ぶ						
《成績評価の方法と基準》						
小テスト、ミニレポート並びに演習参加態度、筆記試験で総合的に評価。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
医療安全 患者の安全を守る看護の基礎力、臨床力 学研						
《授業外における学習方法》						
講義前に事前課題を提出する。また、講義後は小テスト、レポートの提出を行い、授業内容の予習・復習をする。						
《履修に当たっての留意点》						
医療安全に関する新聞記事やニュースに関心を持ち、過去の事例を調べておく						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療安全を学ぶことの重要性・医療安全の考え方の変化について説明できる	配布資料 テキスト	配布資料、テキストを読み予習・復習を行う	
		各コマにおける授業予定	医療安全を学ぶ意義 医療安全に関わる動向 医療安全の対象 医療安全に関わる基礎知識			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護職の法的規定と医療安全を学び説明できる	配布資料 テキスト	配布資料、テキストを読み予習・復習を行う	
		各コマにおける授業予定	看護倫理と医療安全 看護師の法的規定 看護業務の変遷と安全管理			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療安全への取り組みを学び説明できる	配布資料 テキスト	配布資料、テキストを読み予習・復習を行う	
		各コマにおける授業予定	匡の医療安全への取り組み 看護職能団体の取り組み 医療の質の評価			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	ヒューマンエラーのメカニズムを、人間の基本特性とエラーを誘発しやすい環境との関係で説明できる	配布資料 テキスト	配布資料、テキストを読み予習・復習を行う	
		各コマにおける授業予定	ヒューマンエラーとは 人間特性 エラーを誘発しやすい環境			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	事故分析の考え方と具体的な方法について説明できる	配布資料 テキスト	配布資料、テキストを読み予習・復習を行う	
		各コマにおける授業予定	事故の構造 事故分析に重要なこと 具体的な分析手法の特徴			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	インシデント報告の意味と必要性を説明できる	配布資料 テキスト	配布資料、テキストを読み予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	リスク低減の考えかた エラープルーフ リスクマネジメント		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療安全管理者・TQMについて学び説明できる	配布資料 テキスト	配布資料、テキストを読み予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	医療安全管理者の配置とその意義・業務内容 TQM		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護業務を行う際の特性とリスク事故分析方法を説明できる	配布資料 テキスト	配布資料、テキストを読み予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	看護業務の特徴的な環境とリスク 原因と結果分析の重要性 事故分析方法 医療事故の種類		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療事故の要因と予防策を説明できる	配布資料 テキスト	配布資料、テキストを読み予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	誤薬・輸血事故		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療事故の要因と予防策を説明できる	配布資料 テキスト	配布資料、テキストを読み予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	患者取り違え		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	医療事故の要因と予防策を説明できる	配布資料 テキスト	配布資料、テキストを読み予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	転倒・転落		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	医療事故の要因と予防策を説明できる	配布資料 テキスト	配布資料、テキストを読み予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	針刺し 誤嚥		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	医療事故の要因と予防策を説明できる	配布資料 テキスト	配布資料、テキストを読み予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	皮膚障害 異物遺残		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	医療事故の要因と予防策を説明できる	配布資料 テキスト	配布資料、テキストを読み予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	医療機器のトラブル チューブ類のトラブル		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	医療従事者の安全を脅かすリスクと対策、医療事故後の対応について学び説明できる	配布資料 テキスト	配布資料、テキストを読み予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	感染の危険を伴う病全体への曝露 感染に対する標準予防策と感染経路別予防策 医療機器の使用に関わるもの 医療事故後の対応		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	看護管理		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員	小坂 寿江	実務経験と その関連資格	看護師。病院にて管理者を経験。			
《授業科目における学習内容》						
看護の対象となる人々に最も良質で効果的な看護を提供するための「しくみ」について学習する。そのための看護部門・看護単位の運営、安全管理など質の高い看護実践を可能にするための「しくみ」を構築する基礎的知識を学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
小テスト、レポート並びに演習参加態度、筆記試験で総合的に評価。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 統合 看護管理 看護の統合と実践① 医学書院						
《授業外における学習方法》						
講義前に事前課題を提出する。また、講義後は小テスト、レポートの提出を行い、授業内容の予習・復習をする。						
《履修に当たっての留意点》						
過去の学習に関連付け医療におけるしくみを理解すること、その中での自己の役割と社会的責任を確認する。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	看護管理とは・組織とはを理解し説明できる		配布資料 テキスト	配布資料、テキストを読み予習・復習を行う	
	各コマにおける授業予定	看護管理とは 看護管理の基盤となる知識 組織の理解				
第2回	授業を通じての到達目標	看護におけるマネジメントを学び説明できる		配布資料 テキスト	配布資料、テキストを読み予習・復習を行う	
	各コマにおける授業予定	マネジメントとは マネジメントの考え方の変遷 看護におけるマネジメント				
第3回	授業を通じての到達目標	看護倫理について説明できる		配布資料 テキスト	配布資料、テキストを読み予習・復習を行う	
	各コマにおける授業予定	看護者の倫理綱領 看護実践倫理 経営倫理 倫理的葛藤				
第4回	授業を通じての到達目標	看護ケアのマネジメントとしてのチーム医療について学び説明できる		配布資料 テキスト	配布資料、テキストを読み予習・復習を行う	
	各コマにおける授業予定	チーム医療の定義 チーム医療に必要な機能 多職種連携と協働				
第5回	授業を通じての到達目標	看護ケアのマネジメントとしての日常業務のマネジメントについて学び説明できる		配布資料 テキスト	配布資料、テキストを読み予習・復習を行う	
	各コマにおける授業予定	看護業務の定義・日常業務のマネジメント 看護基準と看護手順 クリニカルパス 情報の活用				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	看護職のキャリアマネジメントについて学び、その必要性を説明できる	配布資料 テキスト	配布資料、テキストを読み予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	キャリアとキャリア形成 看護職のキャリア形成		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	マネジメントに必要な知識・技術を理解し説明できる	配布資料 テキスト	配布資料、テキストを読み予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	組織のマネジメント リーダーシップ・組織の調整 タイムマネジメントとストレスマネジメント		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定	終講試験		